

# 個々の古墳出土銅鏡の鋸歯文 (その3 家屋文鏡とその他の佐味田古墳鏡)

10506 前 義治  
10512 田岸昭宣

## 目次

まえがき	1
103 佐味田家屋文鏡の同環鏡	1
103 家屋文鏡と同環である鏡の出自	16
103 家屋文鏡と最も環径が一致する 175 ホケノ山鏡の出自の検討	18
形状比と底辺長が2付近に集まる中国鏡一覧	24
その他の奈良佐味田宝塚鏡の同環鏡	39
奈良佐味田鏡のまとめ	55
コラム	56

## まえがき

佐味田古墳から出土した銅鏡の中に、家屋文鏡というものがある。

これには当時の家屋が描かれていると考えられ、当時の生活を知る有力な手掛かりとされている。そして、家屋文鏡は日本製であり、当時の日本の家屋が記録されているとするのが大勢である。

2025年11月の本欄でも、家屋文鏡が日本製とする報文が紹介されている。

しかし、本当にそうであろうか。

我々の開発した鋸歯文による同環鏡法は銅鏡のDNA検査である。この同環鏡法を使って、今回佐味田家屋文鏡の出自を検討してみた。その結果を以下に報告する。

## 103 佐味田家屋文鏡の同環鏡

およそ400面の銅鏡のなかから103佐味田家屋文鏡の同環鏡を探索した(103は当方の通し番号、以下

同じ)。結果を以下に示す。

103 の鋸歯文の詳細を見るために大きな写真を以下に示した。非常に小さな、かつ鋭い三角形が並んでいる。



103 佐味田家屋文鏡（鏡径 229 mm）

103 佐味田家屋文鏡（鏡径 229 mm）の同環鏡と同数鏡を下表に示した。

およそ 400 面ある中で、103 の同環鏡は 5 面であった。

103 は中国出土の 206 建武 5 年銘画文帶神獸鏡と同環であるとともに、日本出土の 110 岡山車塚內行花文鏡、175 ホケノ山吾作銘同向式神獸鏡、200 衛門戸丸塚画文帶神獸鏡、229 京都庵寺山対置式神獸文鏡と同環である。

さらに家屋文鏡は形状比と底辺長が 2 付近に集まる一部の中国鏡と同一の特性を有している。

それらの 5 面の鏡に中で、206 建武 5 年銘画文帶神獸鏡ははっきりした中国鏡であり、他の日本出土の鏡はそれらの鋸歯文探査結果から中国製であることが判明している。

さらに詳しくいえば、175 ホケノ山鏡が劉氏作であることが推定されるので、他の 103 も 200 も劉氏作と考えられる。したがって、103 は中国鏡である。家屋文鏡に描かれている家屋は、中国の家屋である。既存文献ではどうなっているであろうか。

以下は、大和葛城の大古墳群 河上邦彦 新泉社 2006 年 p47 からの抜粋である。

「この鏡の 4 軒の家屋には呪術的な表現がある。このような表現は祖先神や土地神の依代であることを示したい。鳥は神・魂を運ぶものである。そして傘型も依代である。」とある。しかし、中国製とも日本製ともいっていない。

日本考古学用語辞典（大塚初重、戸沢充則）では「奈良県佐味田宝塚古墳出土の特殊な仿製鏡」、図解考古学事典（水野清一、小林行雄）（平成 6 年）では「文様が独創的な点で、仿製鏡としてはめずらしく、重要な資料である（小林）。」とある。

いずれも「仿製鏡」すなわち「日本製」であるといっている。

考古学者の大勢は、三角縁神獸鏡を中国製といい、家屋文鏡を仿製（日本製）と言っているに対して、筆者たちは、鋸歯文検査の結果から三角縁神獸鏡は日本製（渡来工人の作であるが）、家屋文鏡は中国製といっているのである。

103 佐味田家屋文鏡の同環鏡と同数鏡を下表に示した。

103 佐味田家屋文鏡（鏡径 229 mm）の同環鏡（環径、197、177、147 mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
110	岡山車塚內行花文鏡	191	147	
175	ホケノ山吾作銘同向式神獸鏡	191	147	
200	衛門戸丸塚画文帶神獸鏡	221	147	
206	建武 5 年銘画文帶神獸鏡	242	147	中国
229	京都庵寺山対置式神獸文鏡	167	147	

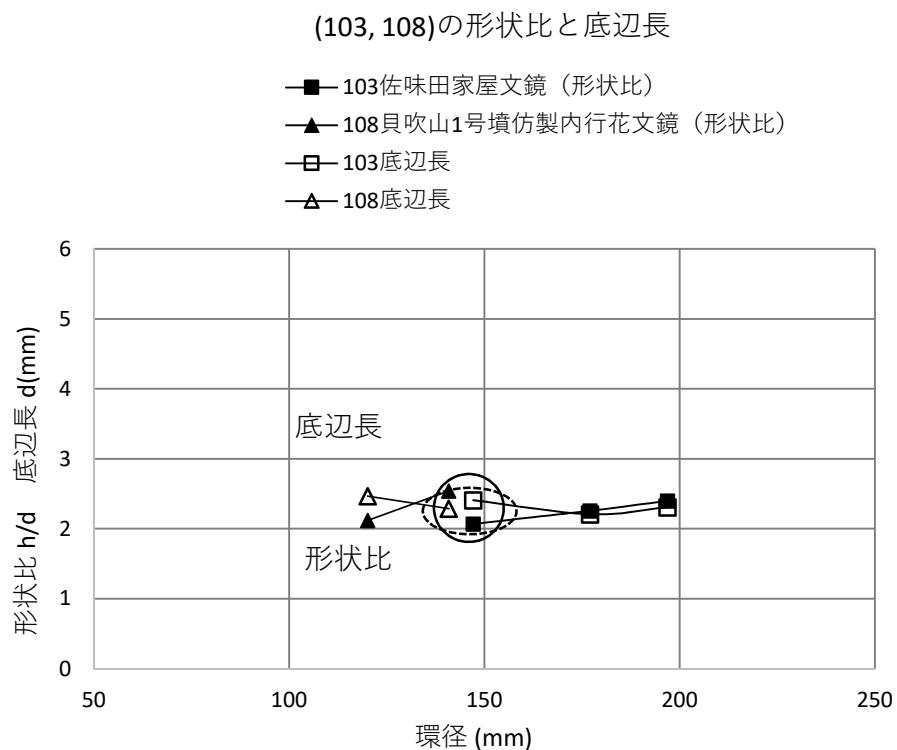
103 佐味田家屋文鏡（鏡径 229 mm）の同数鏡（環径、197、177、147 mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地

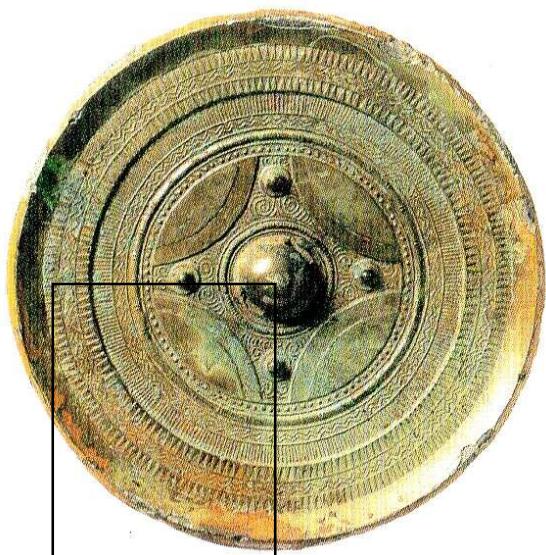
108	貝吹山1号墳仿製内行花文鏡	172	147	
-----	---------------	-----	-----	--

103 家屋文鏡の同環鏡と同数鏡のデータを以下に示した。

(103, 108)

108 が同数である。





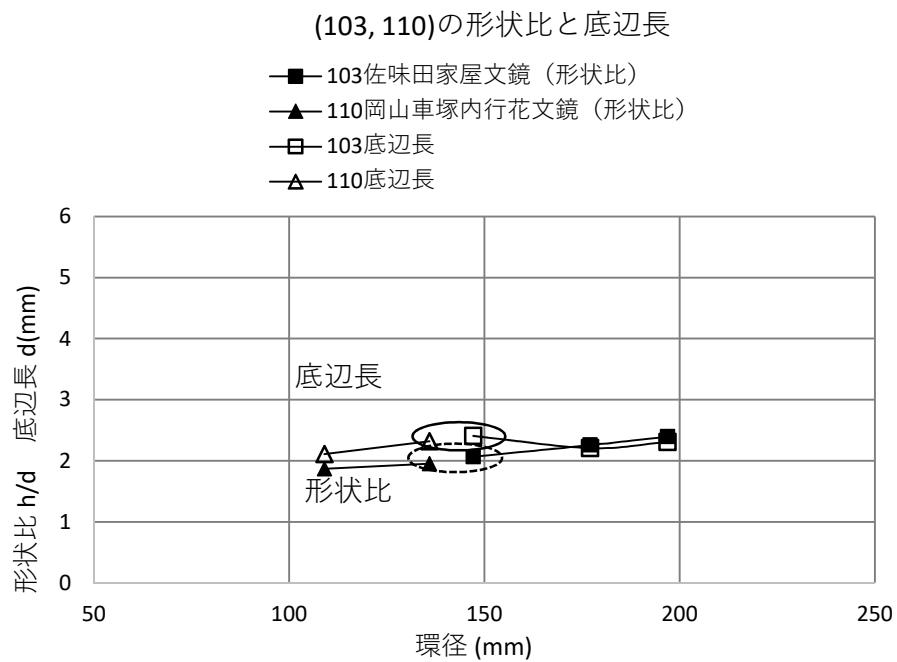
108 貝吹山 1 号墳仿製内行花文鏡（鏡径 172 mm）



103 奈良佐味田家屋文鏡（鏡径 229 mm）

## (103, 110)

110が環径は離れているが、鋸歯の三角形は合同である。これを、広義の同環鏡と解釈する（以下同じ）。





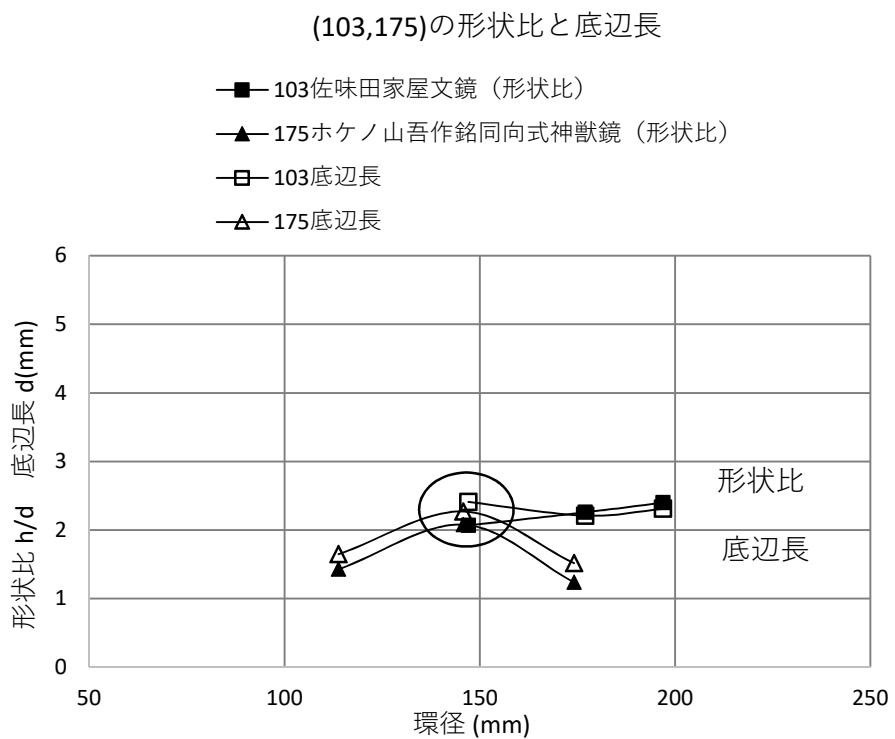
110 岡山車塚内行花文鏡（鏡径 191 mm）



103 奈良佐味田家屋文鏡（鏡径 229 mm）

## (103,175)

175 ホケノ山吾作銘同向式神獸鏡が 103 と同環である。103 は形状比と底辺長が 2 付近に集まる現象を示す。175 も同様である。これは一部の中国製鏡の特徴である。





1

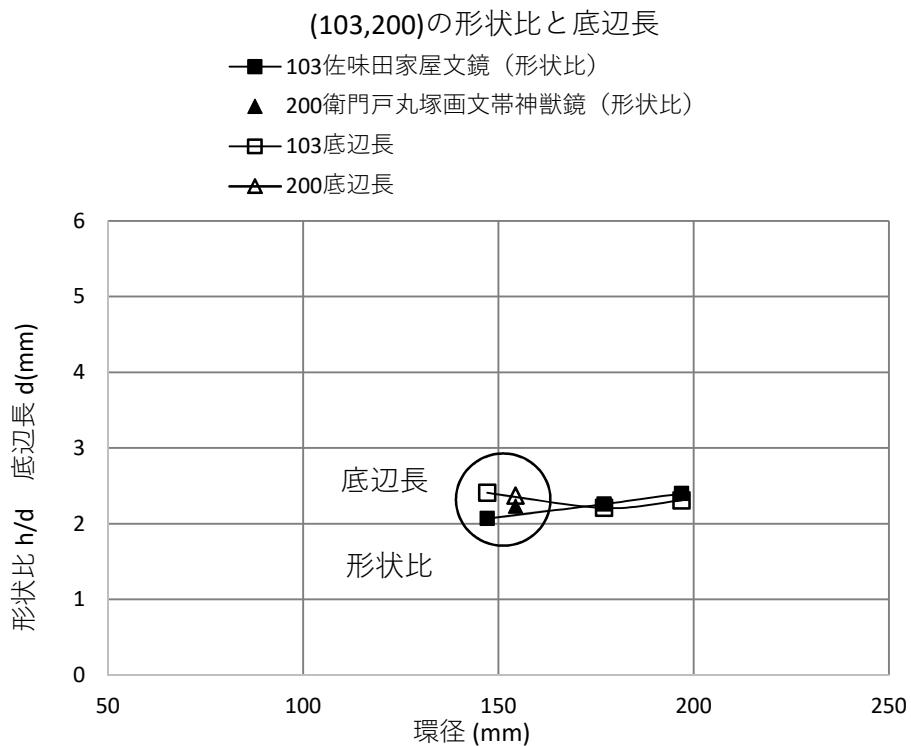
175 ホケノ山吾作銘同向式神獸鏡（鏡径 191 mm）

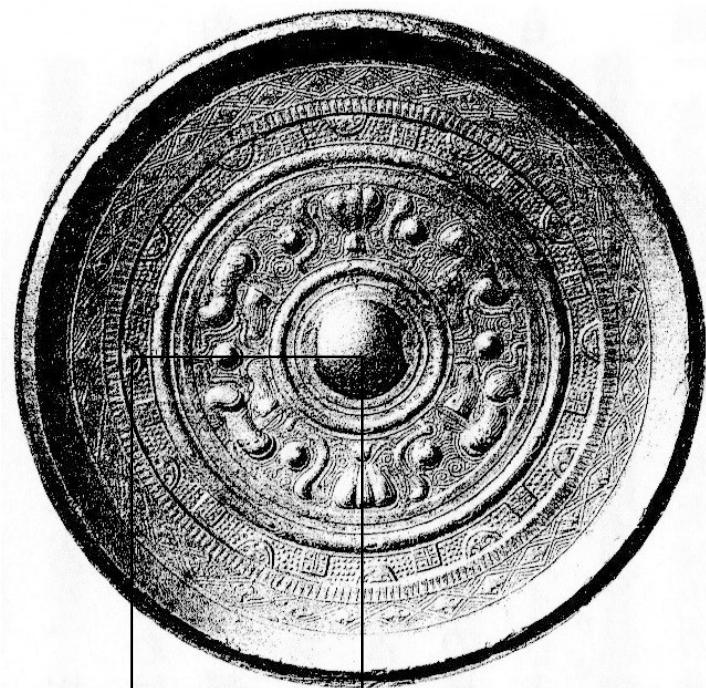


103 奈良佐味田家屋文鏡（鏡径 229 mm）

## (103,200)

200衛門戸丸塚画文帶神獸鏡が103と同環である。環径は少し異なるが、鋸歯の三角形は合同である。





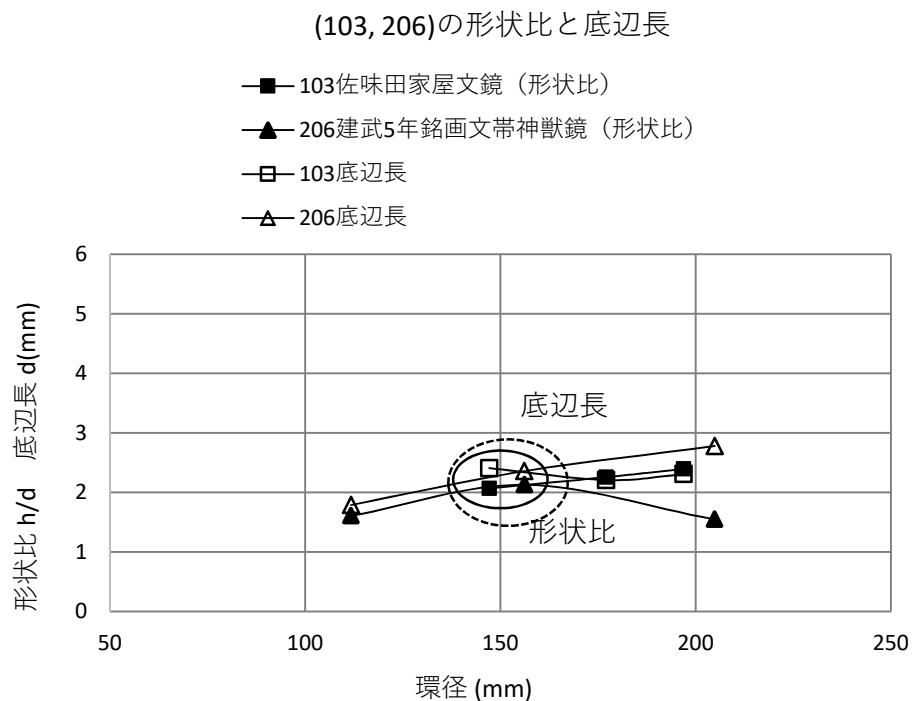
200 衛門戸丸塚画文帶神獸鏡(鏡径 221 mm)

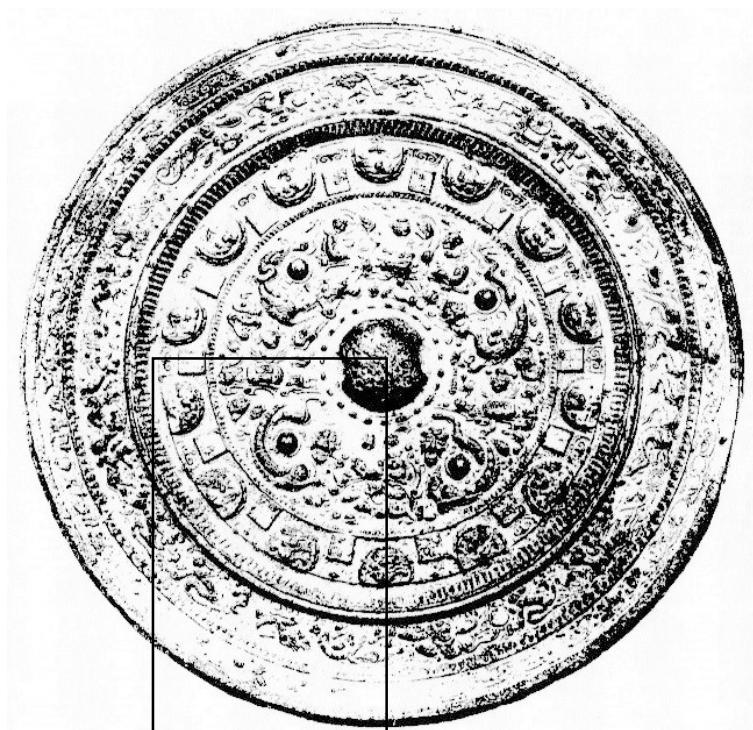


103 奈良佐味田家屋文鏡 (鏡径 229 mm)

## (103, 206)

206 が同環である。環径は離れているが、鋸歯の三角形は合同である。





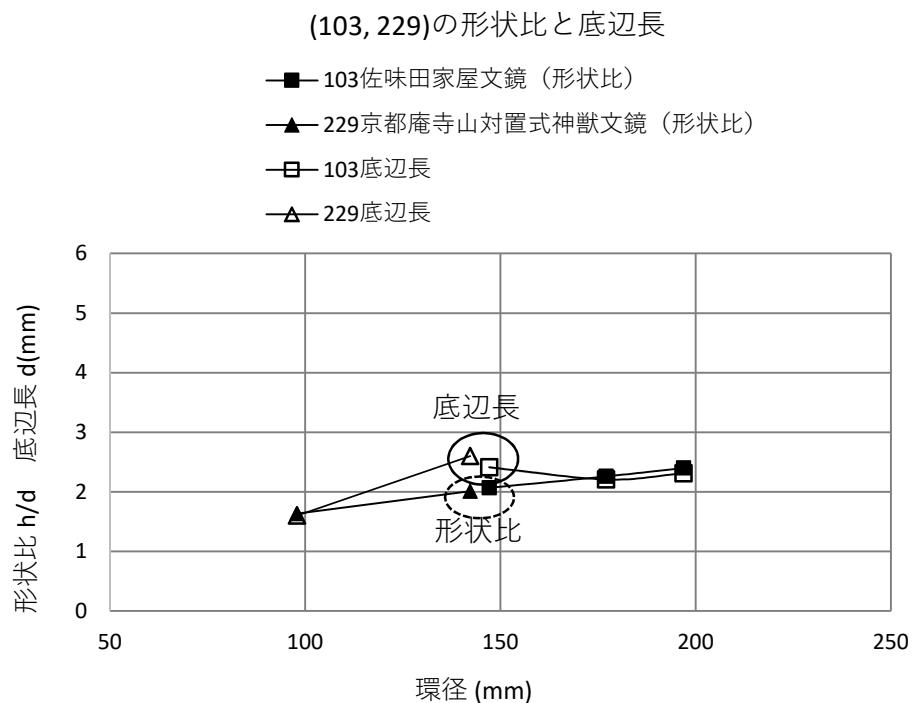
206 建武 5 年銘画文帶神獸鏡（鏡径 242 mm）



103 奈良佐味田家屋文鏡（鏡径 229 mm）

## (103, 229)

229 が同環である。環径はやや離れているが、鋸歯の三角形は合同である。





229 京都庵寺山対置式神獣文鏡（鏡径 167 mm）



103 奈良佐味田家屋文鏡（鏡径 229 mm）

## 103 家屋文鏡と同環である鏡の出自

103 家屋文鏡が中国製か日本製かの判定のためには、103 家屋文鏡と同環である上記の鏡が中国製か日本製かが問題である。

103 佐味田家屋文鏡と同環である 110, 175, 200, 206, 2291 の同環鏡探索の結果を下表に示した。いずれの鏡も中国製と判定され、103 佐味田家屋文鏡が中国製であることを示している。

通し番号	鏡の名称	出土古墳	鏡径 (mm)	同環鏡探索からの判定
110	岡山車塚内行花文鏡	岡山車塚	191	110 に三角縁神獸鏡の同環鏡はない。 110 は 114 洛陽市画文帶同向式神獸鏡と 169 尚方名工杜氏盤龍鏡と同環であるので中国鏡である。 110 は形状比と底辺長が 2 付近に集まる一部の中国鏡の特徴をも有している。その点でも 110 は中国鏡である。
175	ホケノ山吾作同向式神獸鏡	ホケノ山	191	175 に三角縁神獸鏡の同環鏡はない。 206 建武 5 年銘鏡、330 西求女塚 7 号田氏作神人龍虎画像鏡と同環である。 中国出土鏡と同数でもあるので、175 は中国製である。
200	衛門戸丸塚画文帶神獸鏡	奈良佐紀町衛門戸 丸塚古墳	221	200 には同環鏡はわずか 3 面しかなかった。三角縁神獸鏡の

				同環鏡はなかった。 200 は形状比と底辺長が 2 付近に集まるという一部の中国鏡の特徴を有しているため中国鏡である。 330 の田氏作銘鏡と同環であるので、200 は田氏作品であろう。
206	建武 5 年銘画文帶神獸鏡		242	206 建武 5 年銘画文帶神獸鏡（鏡径 242 mm）は中国出土である。中国出土の 169 尚方名工杜氏所造盤龍鏡（80 年代）と同環であり、103 佐味田家屋文鏡、175 ホケノ山吾作銘同向式神獸鏡、200 奈良衛門戸丸塚画文帶神獸鏡、208 伝ホケノ山鏡、250 造山 3 号墳斜縁神獸鏡、330 西求女塚 7 号田氏作神人竜虎画像鏡などの日本出土鏡とも同環であり、これらが中国製であることを示している。
229	京都庵寺山対置式神獸文鏡	京都庵寺山	167	229 は形状比と底辺長が 2 付近に集まるという一部の中国鏡の特徴を有しているので中国鏡である。 三角縁神獸鏡の同環

				鏡も同数鏡もない。 日本出土であるが中国鏡と判定される鏡と同環である。
--	--	--	--	--

## 103 家屋文鏡と最も環径が一致する 175 ホケノ山鏡の出自の検討

上述の 103 の同環鏡は多くの場合、形状比と底辺長はよく一致するが、環径がやや離れている。これは、環径はやや異なっても鋸歯の三角形は合同であることを示しているので、両者の作者が同一か、あるいは緊密な関係を示していることは想像される。しかし、環径が離れていることに疑念を持たれ、本論の家屋文鏡中国製論に疑念を持たれることもあるうかと思うので、補足的に次のようなことを行った。上記の同環鏡のなかで、環径が最も一致するのは、175 ホケノ山吾作同向式神獸鏡である。しかしこれは日本出土であるので直接には 103 が中国製である根拠にならない。103 は通説では中国製とみなされているが、通説では信頼できない。そこで、175 の同環鏡探索結果を以下に述べる。

175 と 206 建武 5 年銘鏡が良い一致を示した。

### (175, 206)

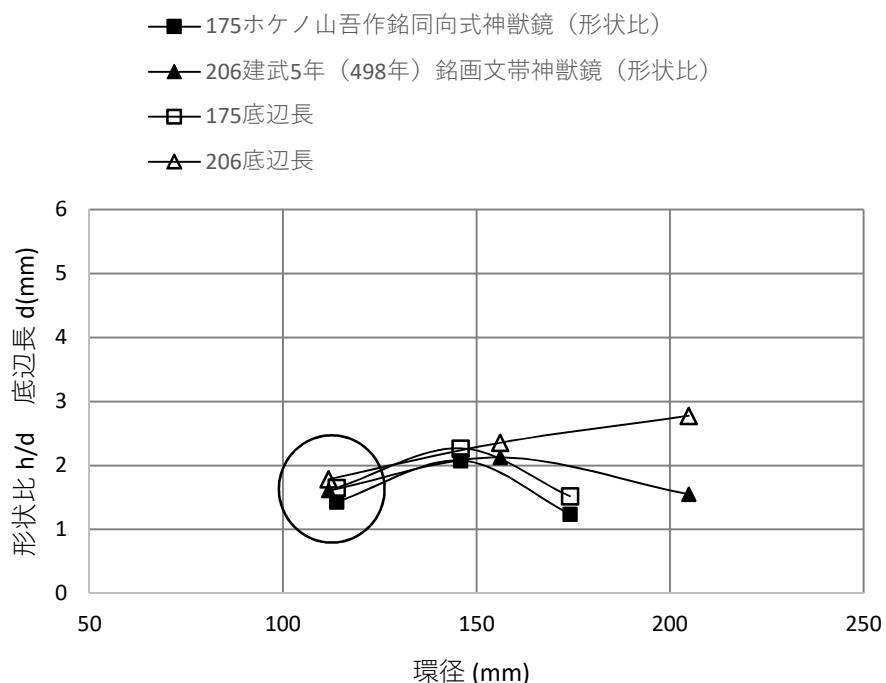
175 は 206 建武 5 年銘鏡と同環である。しかし、建武 5 年は多くあり年代は確定していない。しかし、中国製であることに間違いはない。

この鏡 206 も形状比と底辺長が 2 付近に集まる。

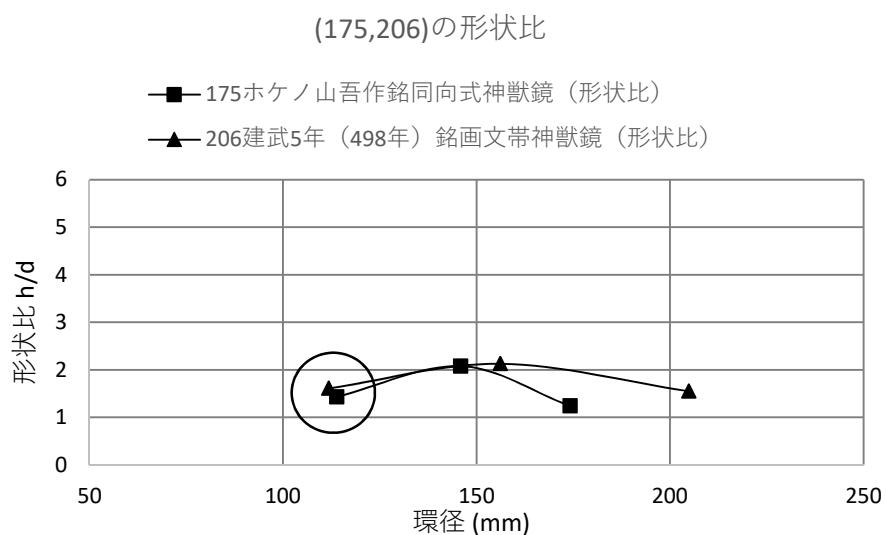
175 は 206 の縮小版のように見える。図像は酷似している。

206 は銅資源が豊富な時期に作ったが、175 は銅不足のため、小さい鏡にした、それが 175 ホケノ山鏡であろう。

(175,206)の形状比と底辺長

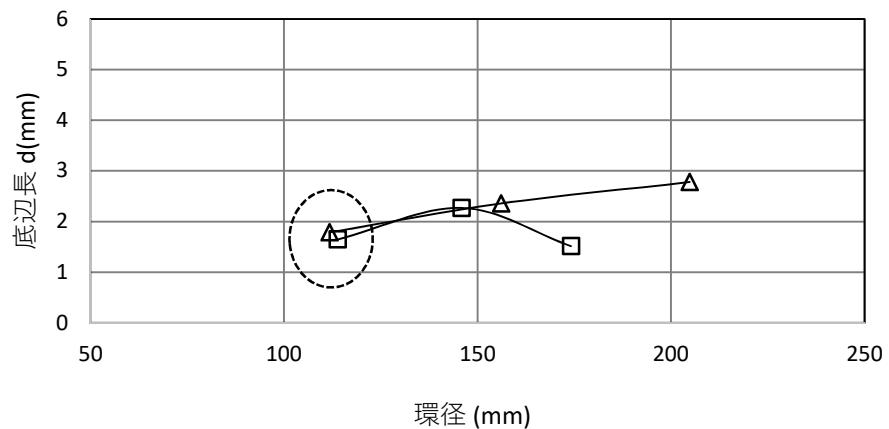


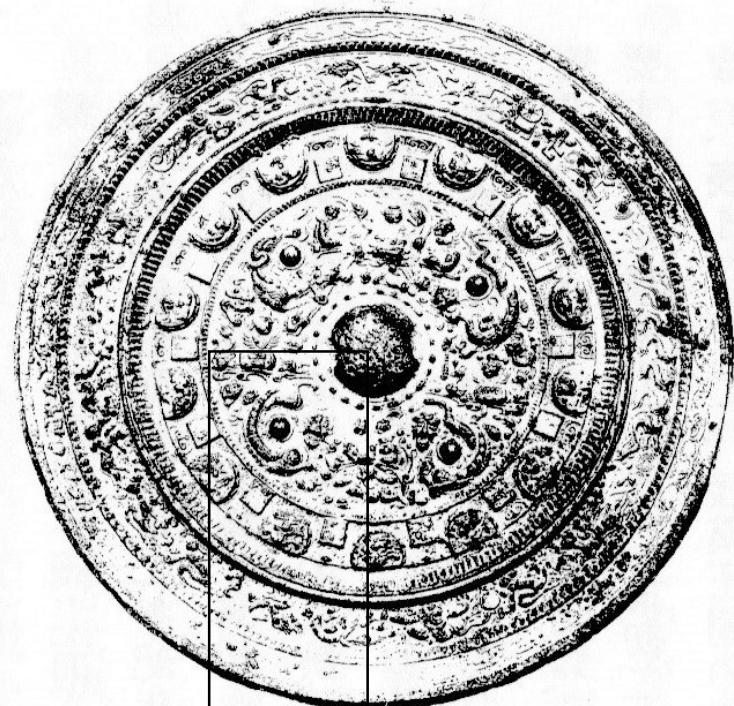
形状比と底辺長を分けて下図に示した。それぞれよく一致する。



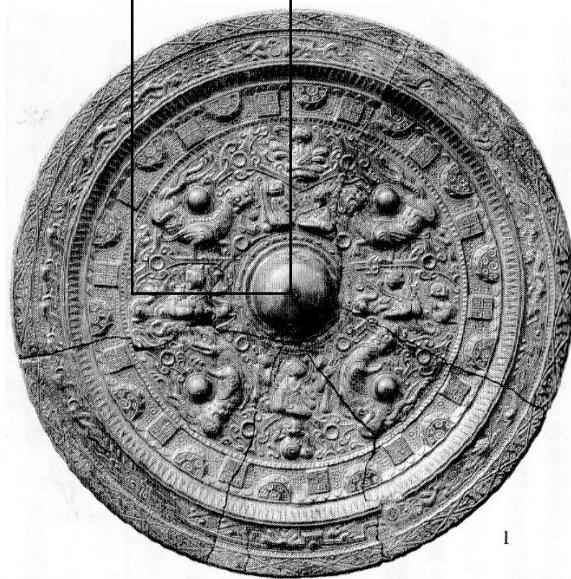
(175,206)の底辺長

—□— 175底辺長    —△— 206底辺長





206 建武 5 年銘画文帶神獸鏡（鏡径 242 mm）



1

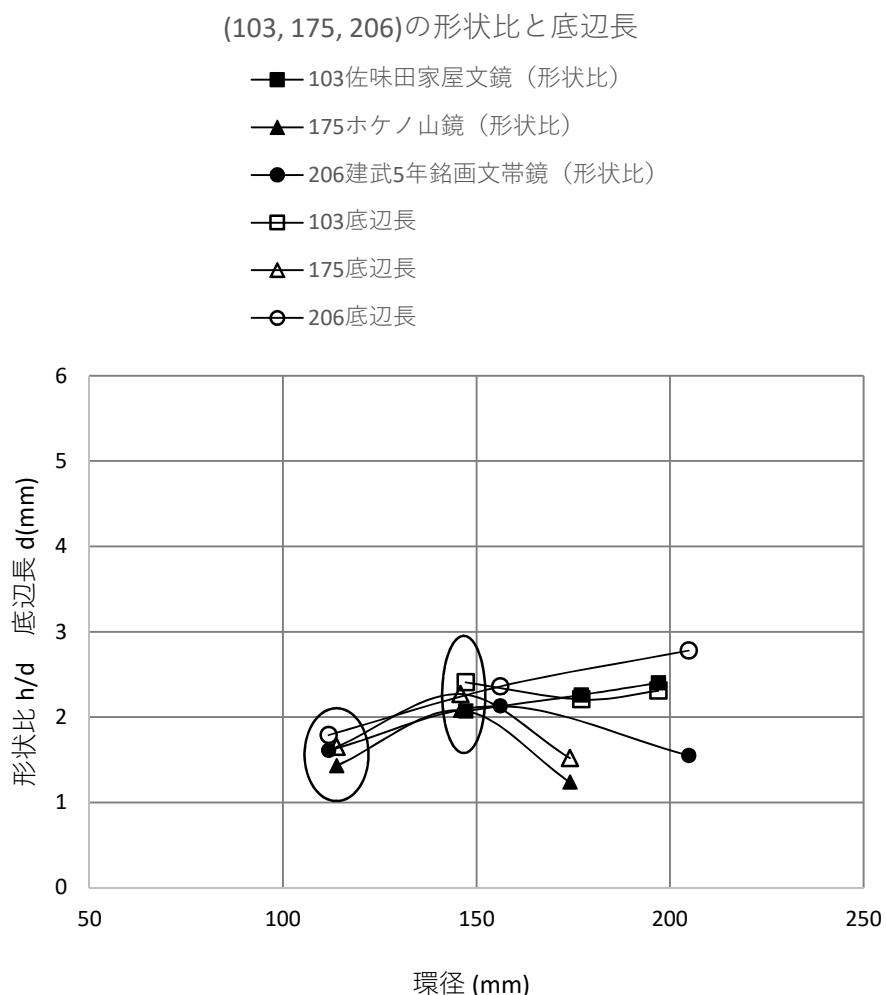
175 ホケノ山吾作銘同向式神獸鏡（鏡径 191 mm）

## (103, 175, 206)

このように 103 は 175 と同環であり、175 は 206 と同環である。

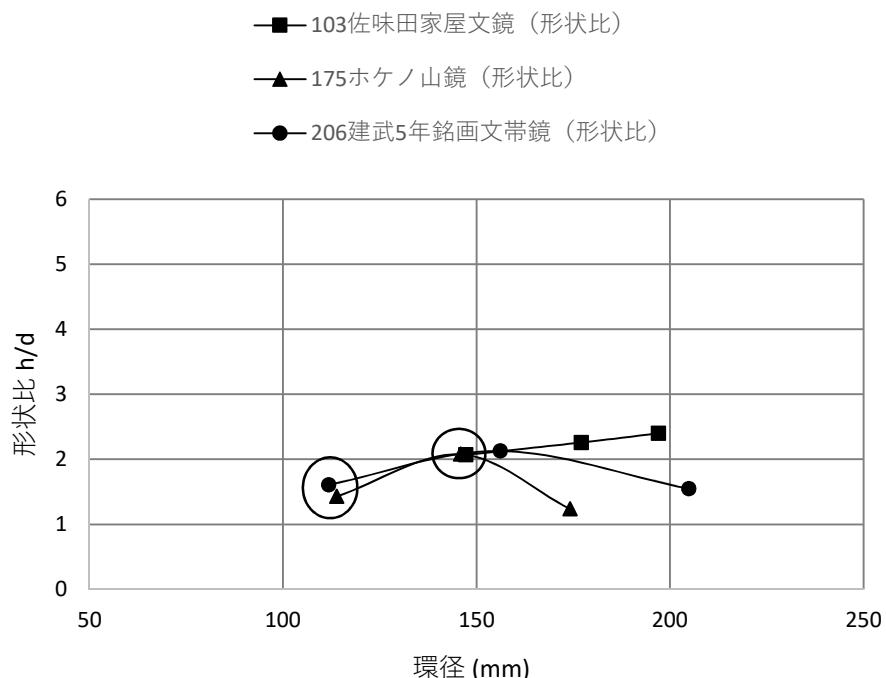
206 は明確に中国製である。103 は 175 を介して、206 と同環と判定でき、したがって、103 が中国製であると判定できるであろう。

以下に、103、175、206 の形状比と底辺長を示した。形状比と底辺長で 103 は 206 と 175 を介して同環であることがわかる。すなわち、103 が中国製であることがわかるのである。

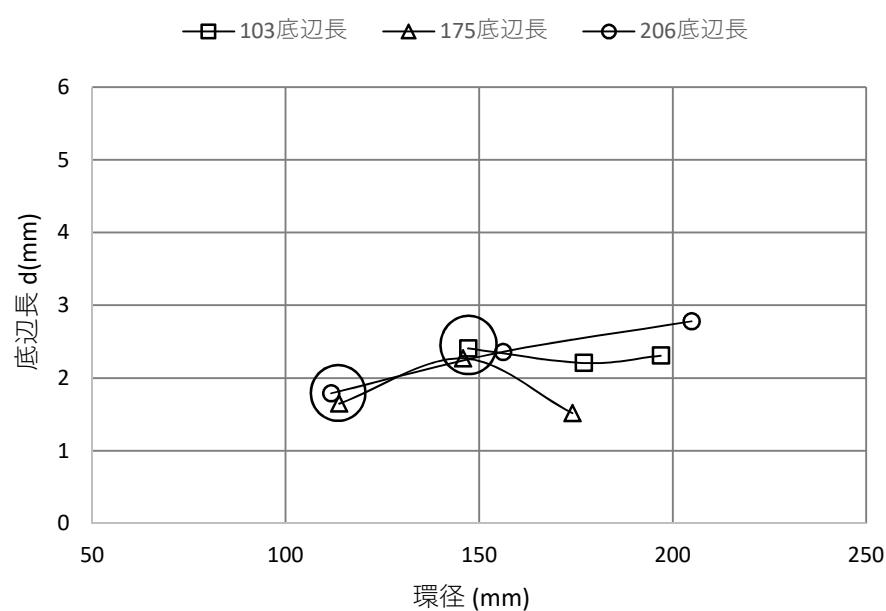


上図ではプロットが錯綜してわかりにくい。形状比と底辺長に分けて以下に示した、

(103, 175, 206)の形状比



(103, 175, 206)の底辺長



環径 145 mm 付近で 103 と 175 が同環であり、環径 110 mm 付近で 175 と 206 が同環であることがわかる。最終的に、103 が 206 と同環とみなされ、103 が中国製と判定される。

## 形状比と底辺長が 2 付近に集まる中国鏡一覧

103 佐味田家屋文鏡は形状比と底辺長が 2 付近に集まる特性を示す。これは、底辺長が 2 mm 前後と細かく、形状比が 2 前後で鋭い三角形を意味するが、この鋸歯文は、三角縁神獸鏡には認められず、中国出土鏡に多く認められる。

また日本出土であっても、それが中国製であれば、認められることがある。その中の一つがこの家屋文鏡である。

2 付近に形状比と底辺長が集まる傾向が中国製を示す特性であることを示すために、以下に形状比と底辺長が 2 付近に集まる中国鏡を示した。

114 洛陽市画文帶同向式神獸鏡（鏡径 150 mm）

115 江蘇省元興元年（105 年）環状乳神獸鏡（鏡径 120 mm）

117 九子環状乳神獸鏡（鏡径 140 mm）

119 湖北省吳造対置式神獸鏡（鏡径 150 mm）

123 湖北省蔭豫所作黃初 2 年（221 年）同向式神獸鏡（鏡径 130 mm）

169 尚方名工杜氏所造盤龍鏡（鏡径 150 mm）

205 浙江省吳王伍子胥画像鏡（鏡径 205 mm）

206 建武 5 年銘画文帶神獸鏡（鏡径 242 mm）

207 雲南省石寨山昭明鏡（鏡径 150 mm）

211 久保惣記念美術館蔵泰始 9 年（273 年）銘鏡（鏡径 177 mm）

212 安徽省壽縣出土鏡（鏡径 143 mm）

214 広東省江尾英德県出土鏡（鏡径 156 mm）

252 黃武元年（222 年）対置式神獸鏡（鏡径 121 mm）

260 浙江出土銅鏡 31（鏡径 155 mm）

265 劉氏作銘帶神獸鏡（鏡径 120 mm）

以下に、103 佐味田家屋文鏡（鏡径 229 mm）とこれら中国出土で形状比と底辺長が 2 付近に集まる鏡の形状比と底辺長を比較して示した。

形状比と底辺長が 2 付近に集まる鏡は三角縁神獸鏡にはみつからない。

反対に中国出土鏡に多くみつかる。

そのような中国鏡は小径のものが多いが、これは中国の 200 年代の銅不足を物語っていると思われる。

その中で、205 浙江省吳王伍子胥画像鏡（鏡径 205 mm）、206 建武 5 年銘画文帶神獸鏡（鏡径 242 mm）のみが 103 に匹敵する大きな鏡径である。

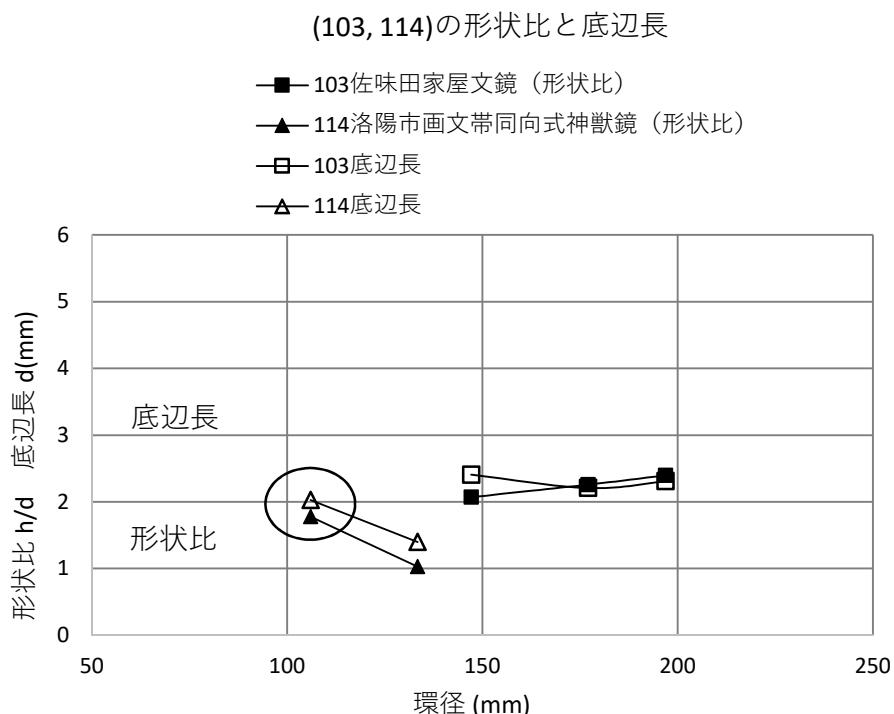
少数派ではあるが、形状比と底辺長が 2 付近に集まる鏡でも大径のものがあるのであるから、103 が大径であることが中国製でないという証拠にはならない。

日本出土の鏡にも形状比と底辺長が 2 付近に集まる鏡があるが、それらは中国製である。103 佐味田家屋文鏡もその中の一つである。

形状比と底辺長が 2 付近に集まる中国鏡を 103 と比較して以下に示した。

## (103, 114)

114 が中国出土で形状比と底辺長がと 2 付近に集まる鏡である（以下同様）。





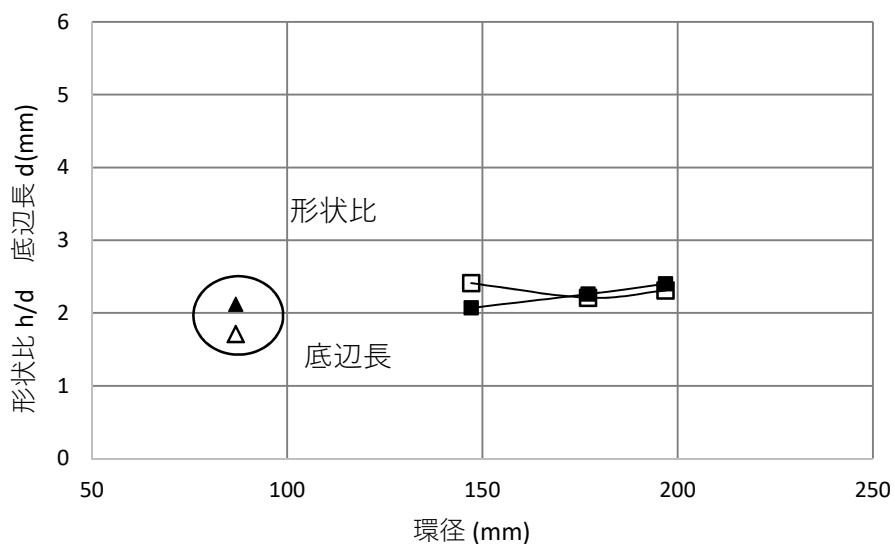
114 洛陽市画文帶同向式神獸鏡（鏡径 150 mm）

## (103, 115)

115 も中国出土で形状比と底辺長がと 2 付近に集まる鏡である。

(103, 115)の形状比と底辺長

- 103佐味田家屋文鏡（形状比）
- ▲ 115元興元年（105年）環状乳神獸鏡（形状比）
- 103底辺長
- △ 115底辺長



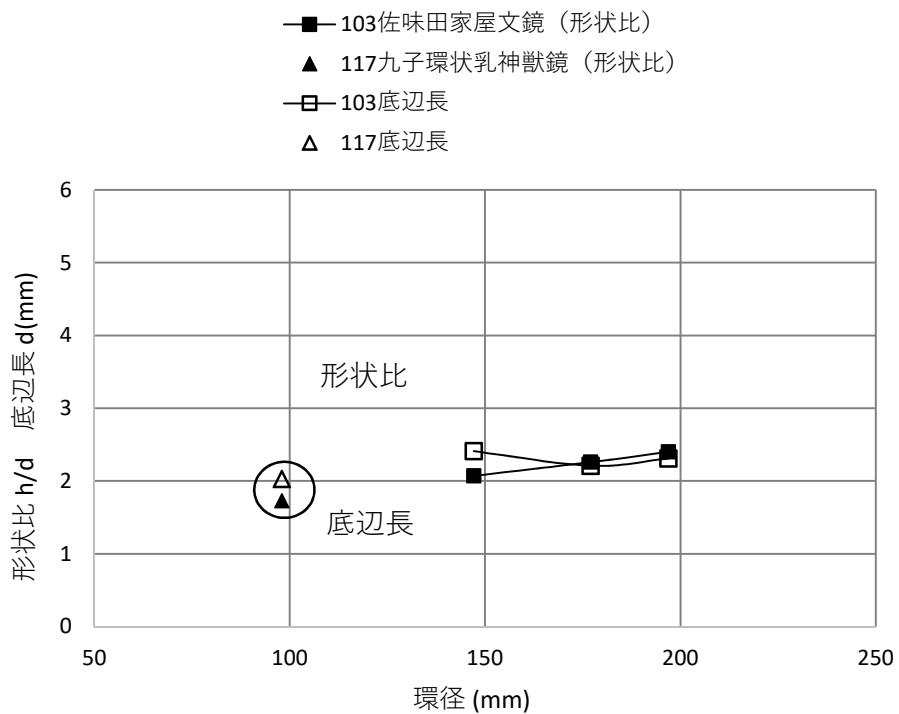


115 元興元年（105 年）環状乳神獸鏡（鏡径 120 mm）

## (103,117)

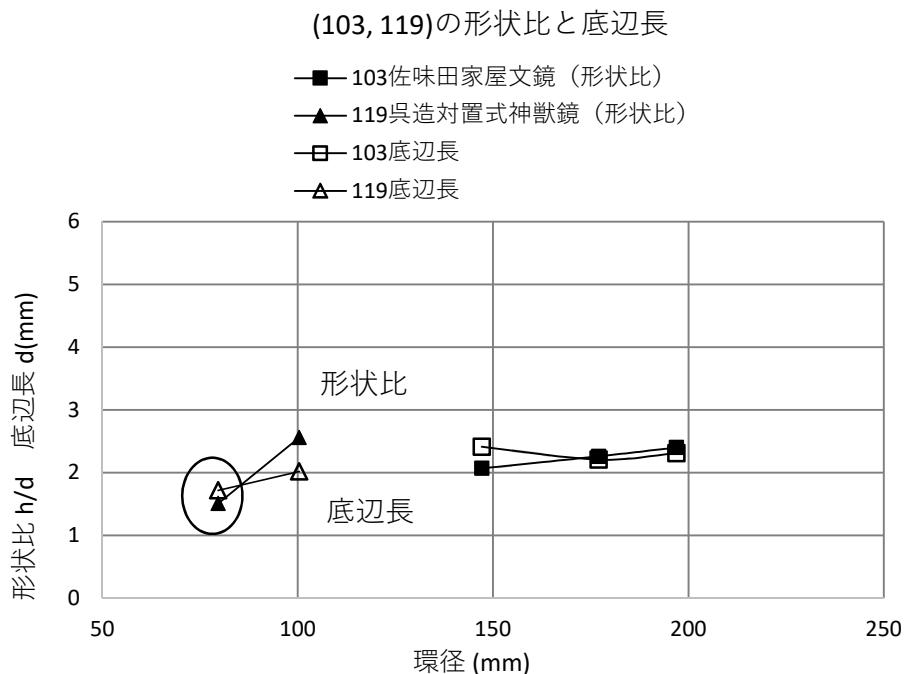
117 も中国出土で形状比と底辺長がと 2 付近に集まる鏡である。

(103, 117)の形状比と底辺長



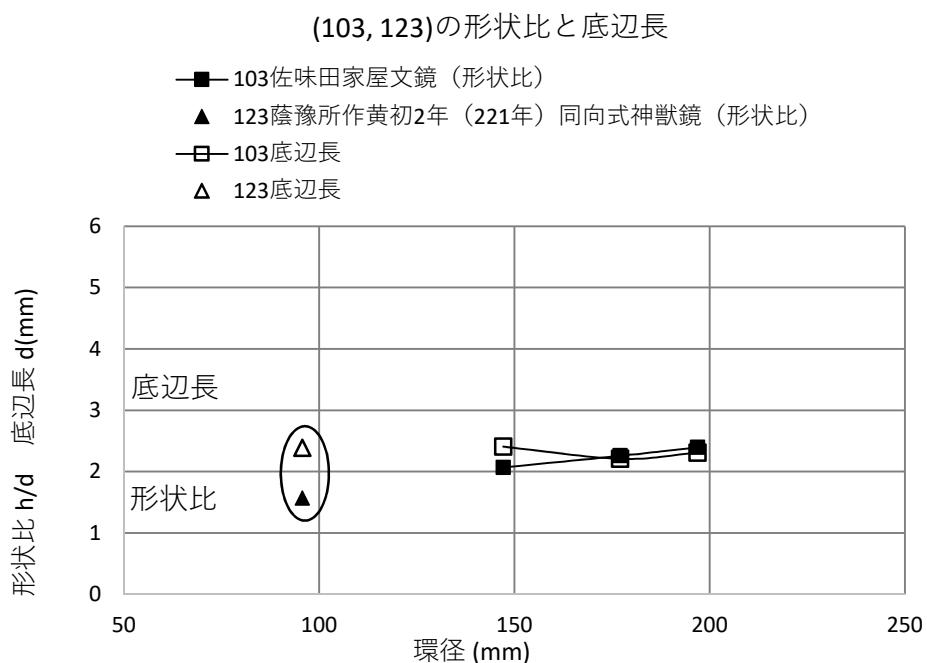
## (103, 119)

119 も中国出土で形状比と底辺長がと 2 付近に集まる鏡である。



## (103, 123)

123 も中国出土で形状比と底辺長がと 2 付近に集まる鏡である。



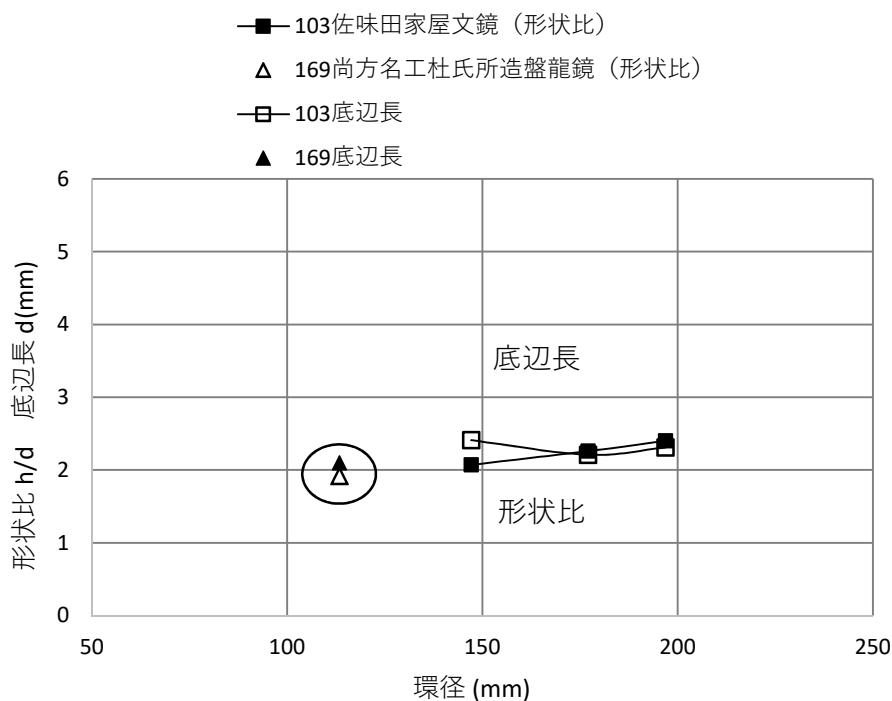


123 蔭豫所作黃初 2 年（221 年）同向式神獸鏡（鏡径 130 mm）

## (103, 169)

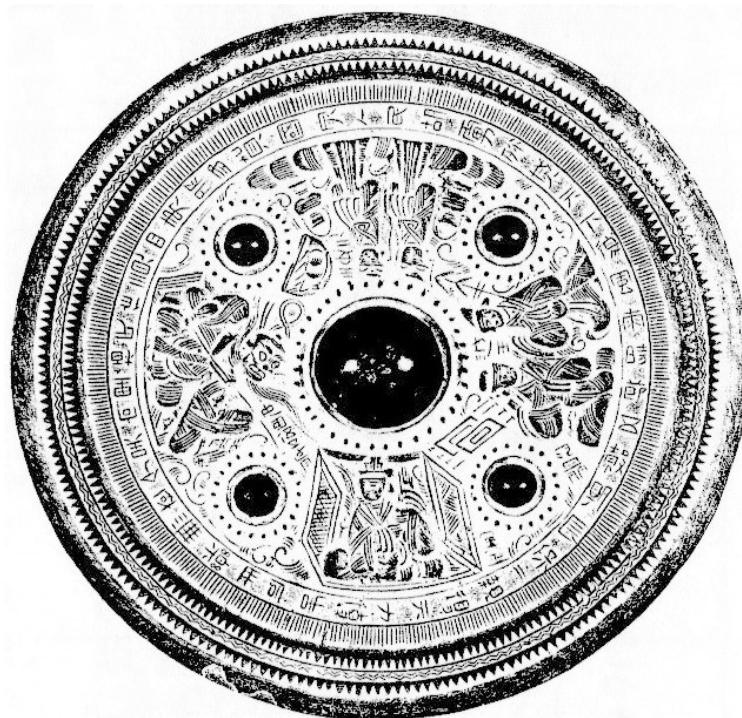
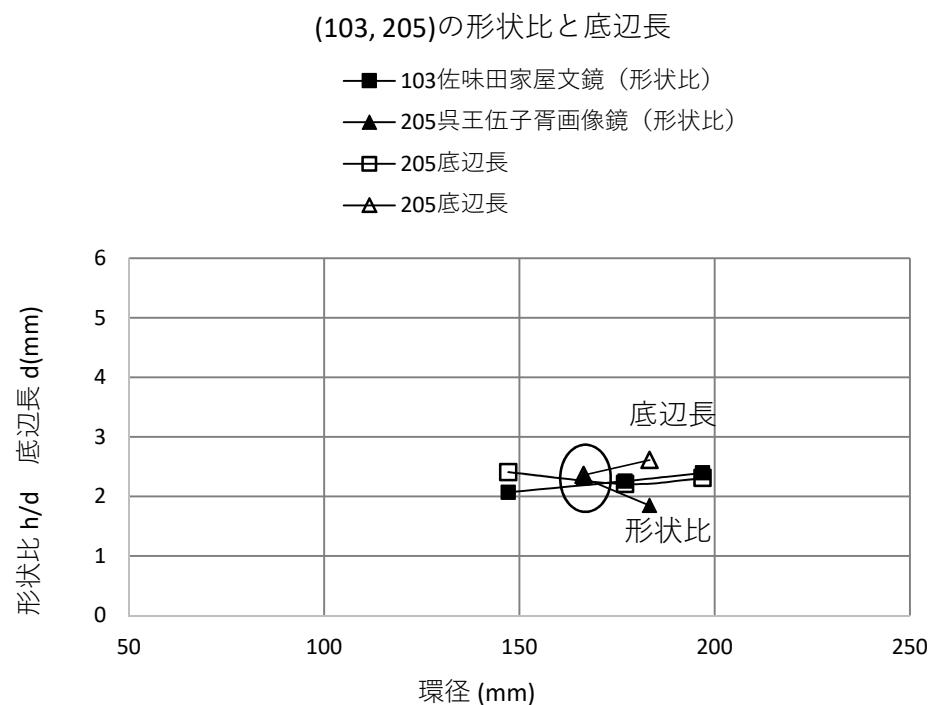
169 も中国出土で形状比と底辺長がと 2 付近に集まる鏡である。

(103, 169)の形状比と底辺長



## (103, 205)

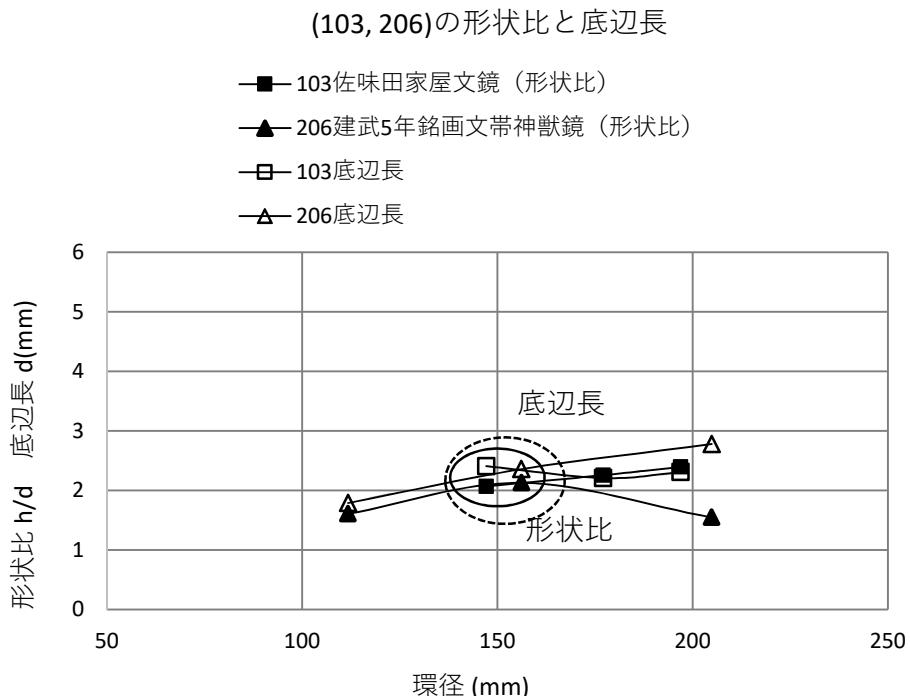
205 も中国出土で形状比と底辺長がと 2 付近に集まる鏡である。



205 吳王伍子胥画像鏡（鏡径 205 mm）

## (103, 206)

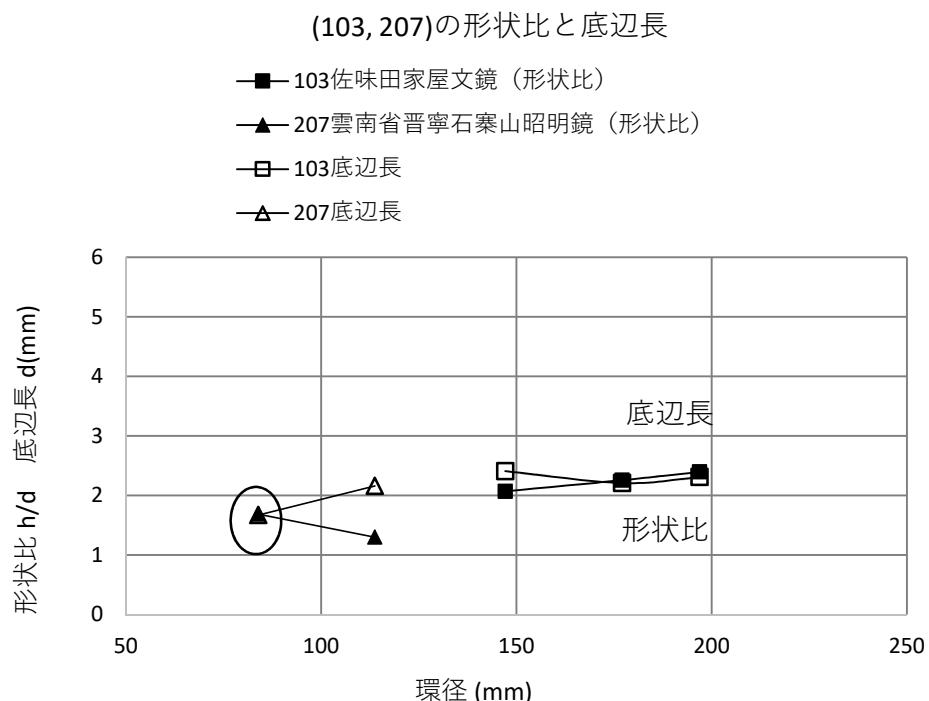
206 も中国出土で形状比と底辺長がと 2 付近に集まる鏡である。



206 建武 5 年銘画文帶神獸鏡（鏡径 242 mm）

## (103, 207)

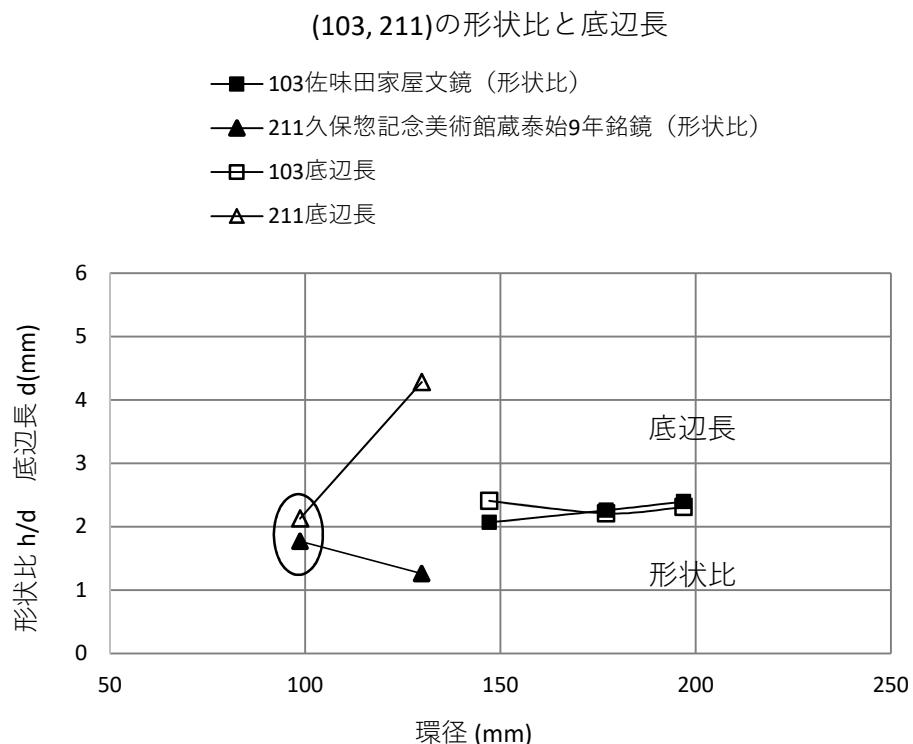
207 も中国出土で形状比と底辺長がと 2 付近に集まる鏡である。



207 雲南省晋寧石寨山昭明鏡（鏡径 150 mm）

## (103, 211)

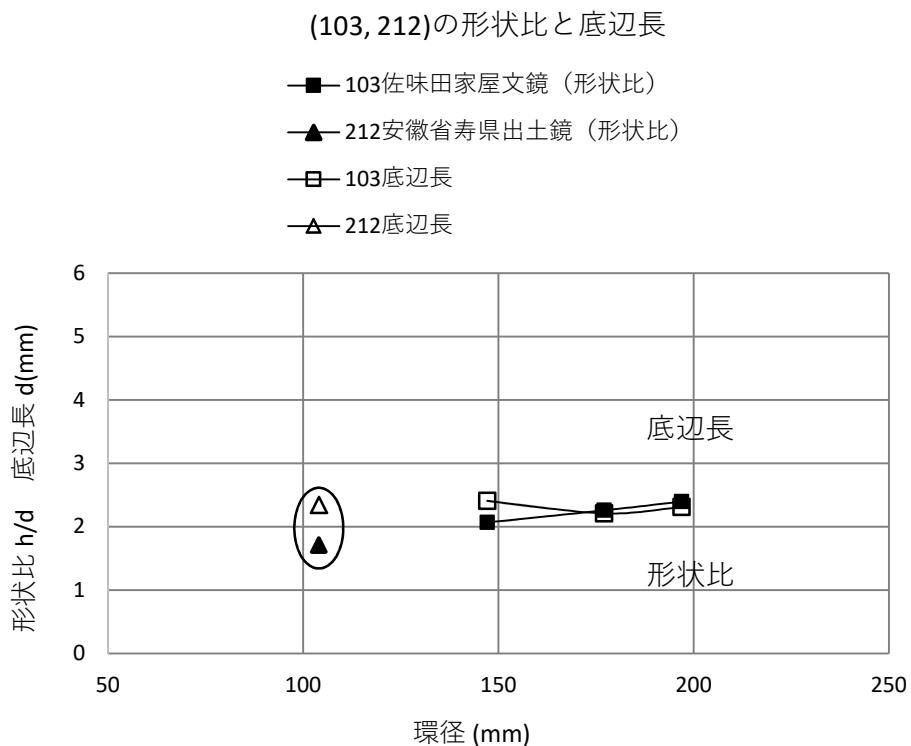
211 も中国出土で形状比と底辺長がと 2 付近に集まる鏡である。



211 久保惣記念美術館蔵泰始 9 年 (273 年) 銘鏡 (鏡径 177 mm)

## (103, 212)

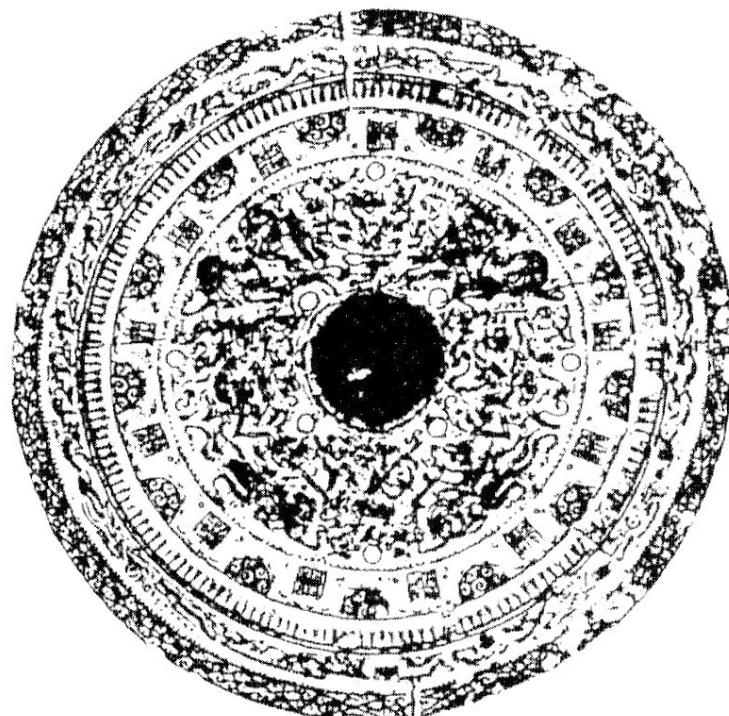
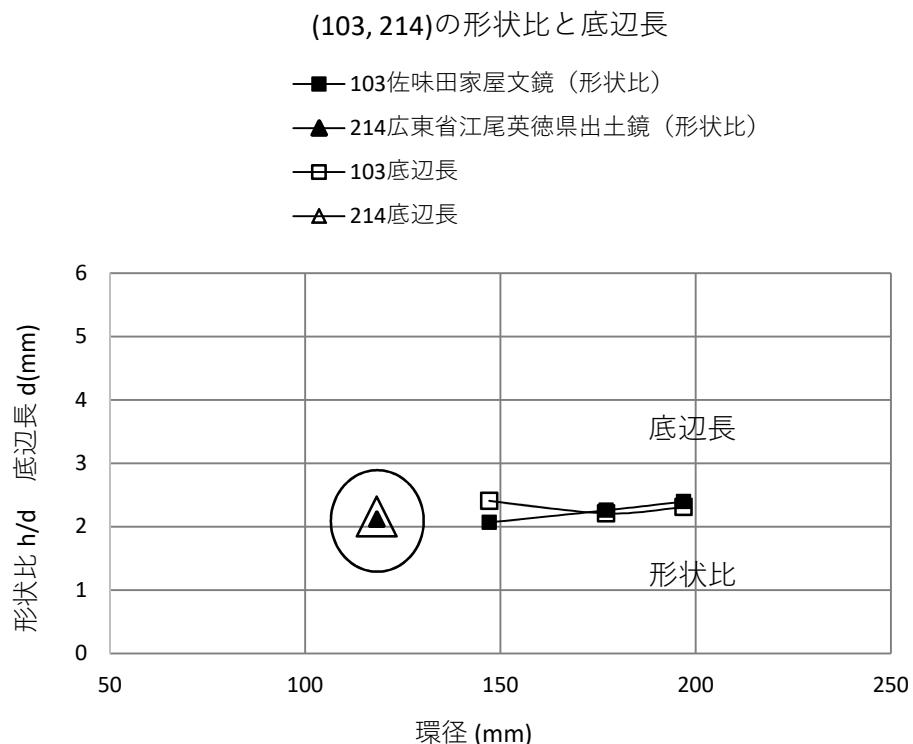
212 も中国出土で形状比と底辺長がと 2 付近に集まる鏡である。



212 安徽省寿県出土鏡 (鏡径 143 mm)

## (103, 214)

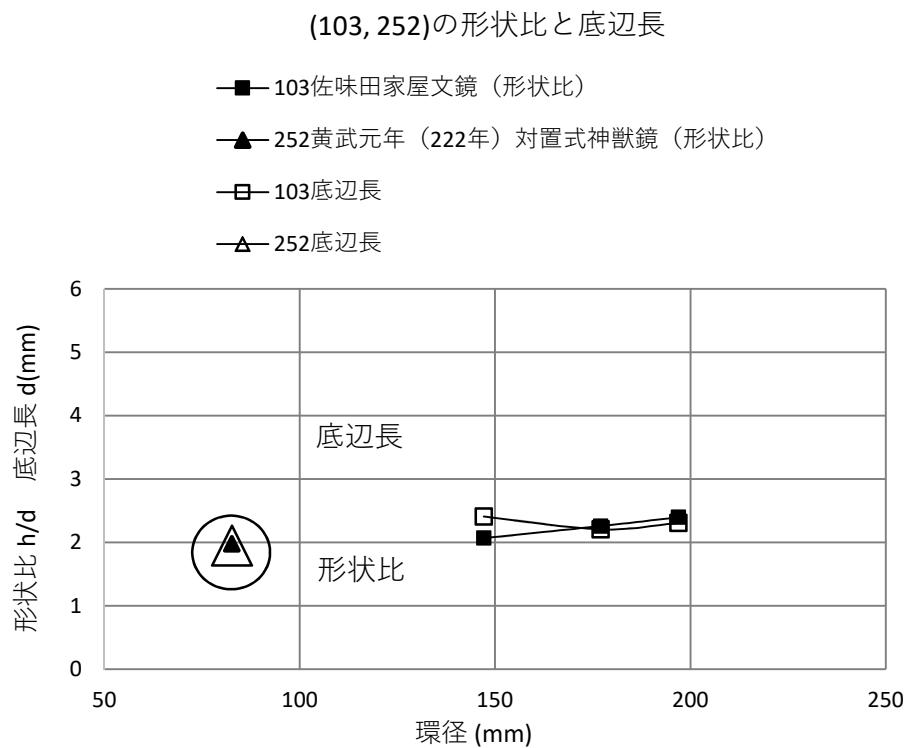
214 も中国出土で形状比と底辺長がと 2 付近に集まる鏡である。



214 広東省黄武英德県出土鏡（鏡径 156 mm）

## (103, 252)

252 も中国出土で形状比と底辺長がと 2 付近に集まる鏡である。

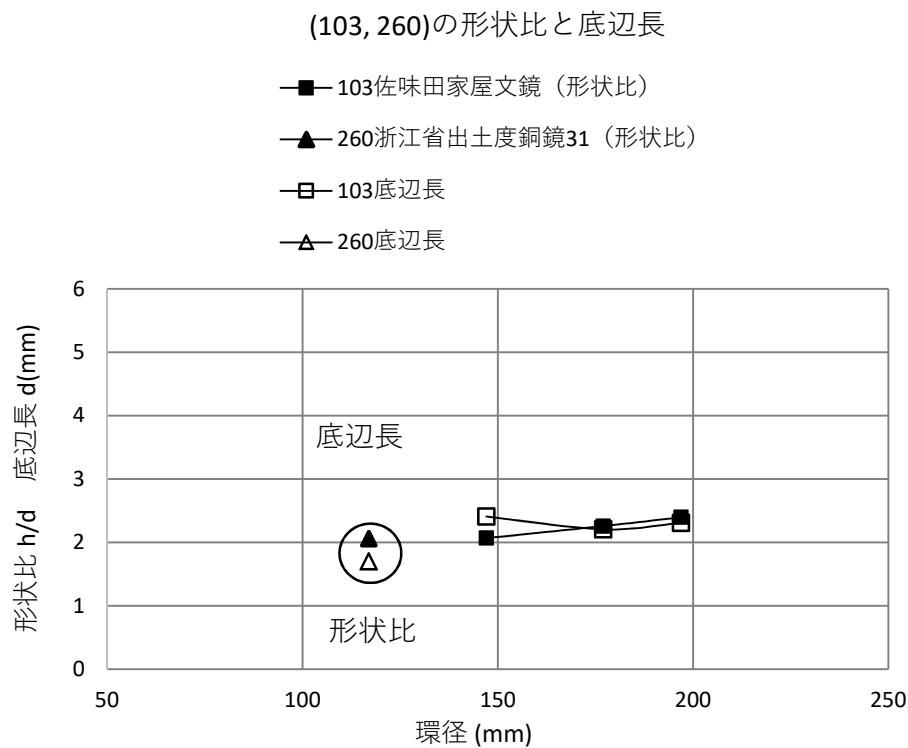


189

252 黃武元年 (222 年) 対置式神獸鏡 (鏡径 121 mm)

## (103, 260)

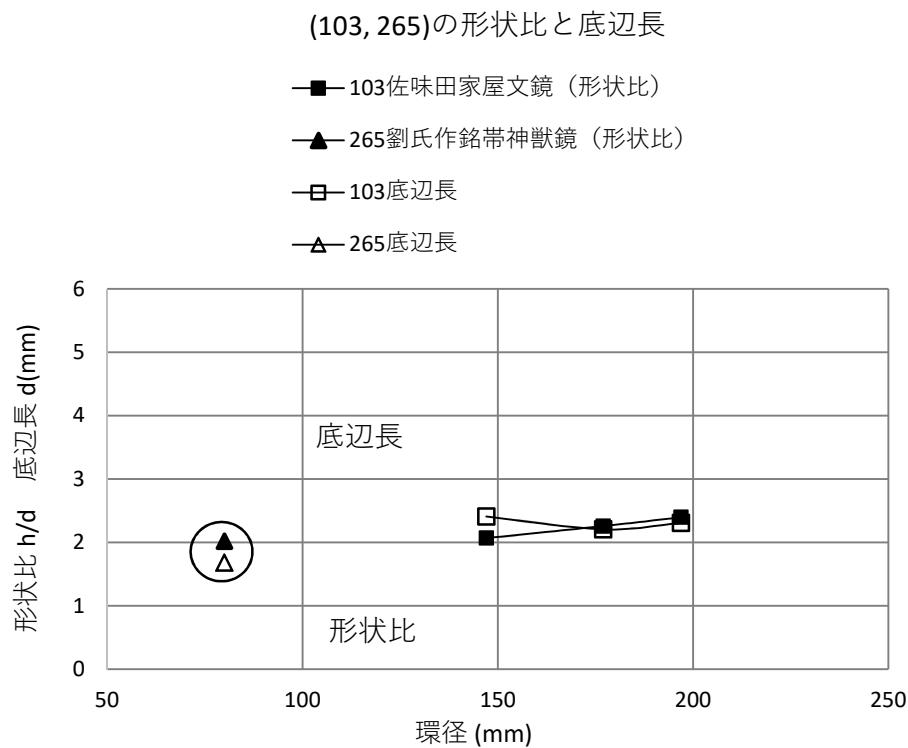
260 も中国出土で形状比と底辺長がと 2 付近に集まる鏡である。



260 浙江省出土銅鏡 31 (鏡径 155 mm)

## (103, 265)

265 も中国出土で形状比と底辺長がと 2 付近に集まる鏡である。



## まとめ

103 佐味田家屋文鏡（鏡径 229 mm）の同環鏡を探索した。

その結果、いくつかの同環鏡が発見されたが、それらはそれらの同環鏡探索の結果からいずれも中国製であることが判明した。したがって、103 は中国製と推定された。

特に、103 は 175 ホケノ山鏡を介して 206 建武 5 年銘鏡と同環となり、確実に中国鏡と判定される。

もう一つの 103 佐味田家屋文鏡の特性として形状比と底辺長が 2 付近に集まるという特性があるが、この特性は、三角縁神獸鏡には認められず、中国製の鏡にのみ見られることを確認した。

これらの二つの点から、「佐味田家屋文鏡」は中国製であると結論された。

## その他の奈良佐味田宝塚鏡の同環鏡

佐味田古墳からは上記の家屋文鏡の他に多くの銅鏡が出土しているらしいが、これまでに、偶然目に止った鏡について同環鏡を探索した結果を以下に示す。

それらの鏡は以下のようである。

16 奈良佐味田宝塚三角縁画像鏡（鏡径 211 mm）

75 奈良佐味田宝塚三角縁 3 神 3 獣鏡（鏡径 221 mm）

80 奈良佐味田宝塚三角縁 4 神 4 獣鏡（鏡径 226 mm）（199、321 と同范）

83 奈良佐味田宝塚三角縁対置式神獸鏡（鏡径 218 mm）

## 16 奈良佐味田宝塚三角縁画像鏡



16 奈良佐味田宝塚三角縁画像鏡（鏡径 211 mm）

16 の同環鏡と同数鏡をまとめて下表に示した。

16 は多くの三角縁神獸鏡と同環である。その中の 56 岡山車塚三角縁 4 神 2 獣鏡は陳是作銘である。16 自身とこれらの同環鏡、同数鏡はすべて陳是作品である。

中国鏡の同環鏡ははまったくない。

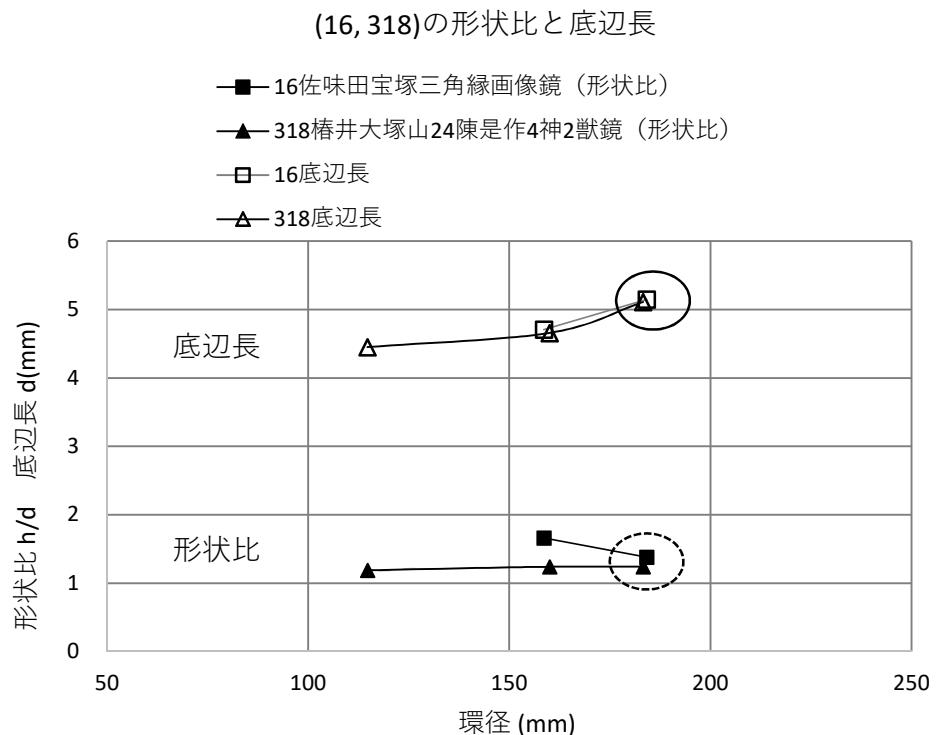
16 奈良佐味田宝塚三角縁画像鏡（鏡径 211 mm）の同環鏡（環径 184, 159mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
1	国分茶臼塚用青同三角縁 4 神 2 獣鏡	222	169	すべて国内
3	椿井大塚山三角縁獸文帶 4 神 4 獣鏡	233	184	
20	大阪ヌク谷吾作甚獨奇銘三角縁 3 神 3 獣鏡	211	184	
34	島根大成三角縁唐草文帶 2 神 2 獣鏡	234	184	
39	佐賀谷口吾作甚獨奇銘三角縁 3 神 3 獣鏡	210	184	
50	兵庫三つ塚 4 号三角縁 3 神 3 獣鏡	220	184	
56	岡山車塚陳是作三角縁 4 神 2 獣鏡	220	184	
57	岡山車塚陳是作三角縁 4 神 2 獣鏡	220	184	
180	一貴山銚子塚吾作甚獨奇銘三角縁神獸鏡	212	184	
188	岡山車塚（2）（57 と同一）	220	184	
246	大成三角縁神獸鏡（34 と同一）	239	184	
287	谷口古墳鏡（39 と同じ）	212	184	
292	雪野山三角縁波文帶盤龍鏡	247	184	
318	椿井大塚山 24 陳是作 4 神 2 獣鏡（55、56、57 と同范）	220	184	

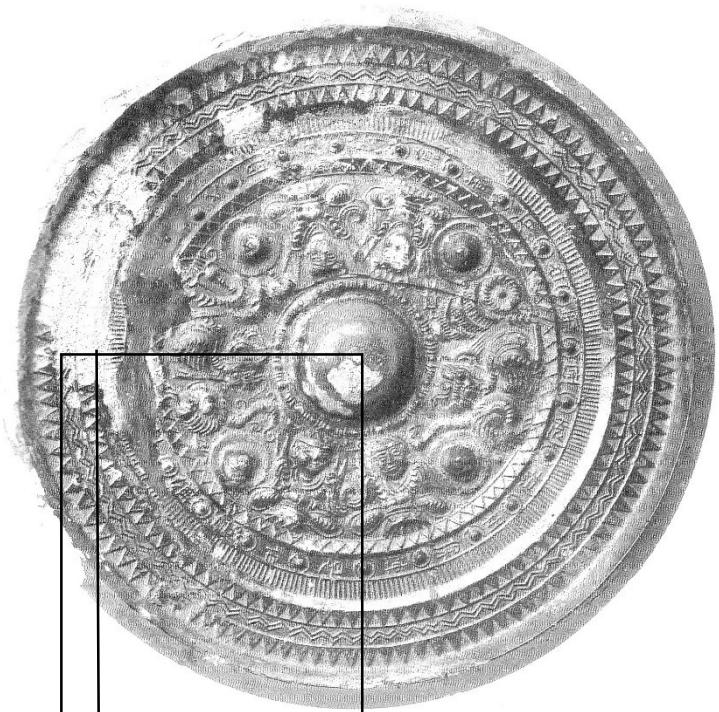
16 奈良佐味田宝塚三角縁画像鏡（鏡径 211 mm）の同数鏡（環径 184,159mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
37	岐阜長塚三角縁獸文帶 3 神 3 獣鏡	216	159	
70	京都樅原百々ヶ池三角縁 2 神 2 獣鏡	224	159	
304	椿井大塚山 10 獣文帶 4 神 4 獣鏡	233	180	
371	佐賀谷口三角縁 3 神 3 獣鏡	216	159	
381	富雄丸山 1 号三角縁神獸鏡	216	159	
385	平原 2 号方格規矩 4 神鏡	209	159	

16 の同環鏡の 1 例を以下に示した。

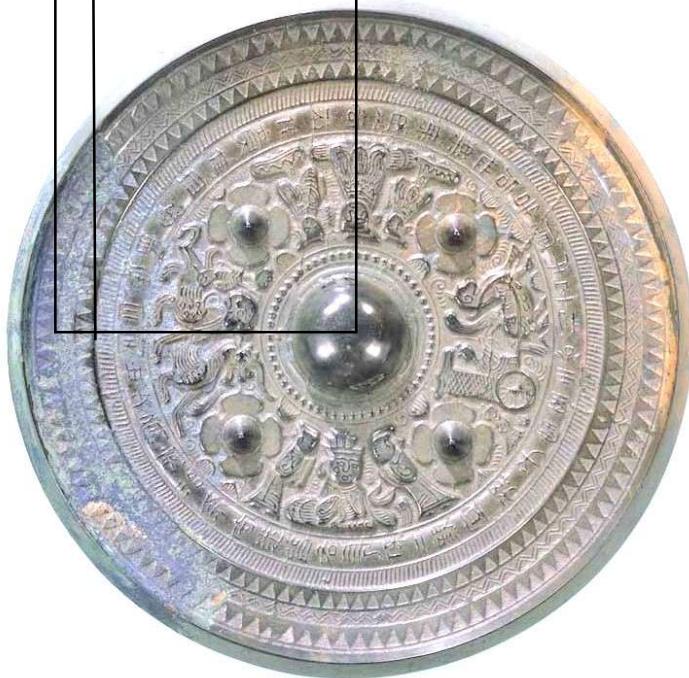
## (16, 318)

318 が同環である。318 は陳是作銘である。





318 椿井大塚山 24 陳是作 4 神 2 獣鏡（鏡径 220 mm）



16 奈良佐味田宝塚三角縁画像鏡（鏡径 211 mm）

## 75 奈良佐味田宝塚三角縁 3 神 3 獣鏡の同環鏡



75 奈良佐味田宝塚三角縁 3 神 3 獣鏡（鏡径 221 mm）

75 は多くの三角縁神獣鏡と同環である。中国鏡の同環鏡はなかった。

陳是、陳氏銘のある同環鏡は出てこなかったが、同環鏡、同数鏡が三角縁神獣鏡のみであることとから、陳是作品であることは明らかである。

特に椿井鏡と黒塚鏡に同環鏡が多い。完全に量産期の鏡である。

75 奈良佐味田宝塚三角縁 3 神 3 獣鏡の同環鏡（環径 186,161,153,125mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
3	椿井大塚山三角縁獸文帶 4 神 4 獣鏡	233	186	すべて 国内
22	椿井シンボ鏡(302 と同じ) (23 と同范)	234	153	
23	上平川三角縁同向式神獣鏡	232	153	
79	岡山車塚三角縁獸文帶 4 神 4 獣鏡	236	161,153	
80	奈良佐味田宝塚三角縁 4 神 4 獣鏡	221	186	
84	静岡上平川三角縁同向式神獣鏡 (23 と同じ)	229	153	
239	鴨都波①斜縁 2 神 4 獣鏡	185	125	

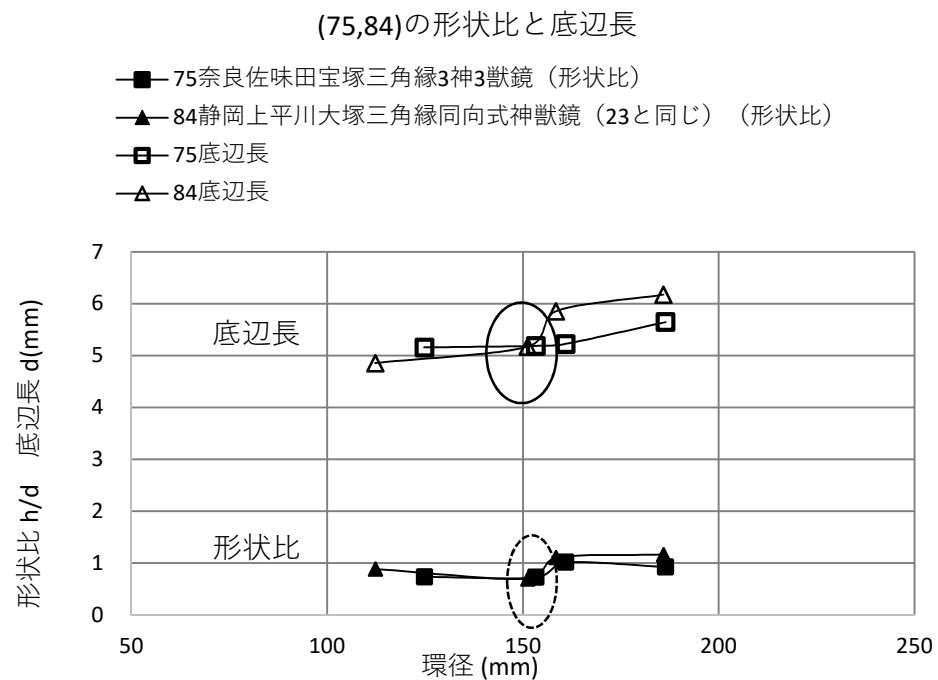
281	黒塚 27 号獸文帶 4 神 4 獣鏡	234	186	
302	椿井大塚山 8 獣文帶同向式神獸鏡	234	153	
304	椿井大塚山 10 獣文帶 4 神 4 獣鏡	233	165, 153	
321	椿井大塚山 27 吾作徐州銘 4 神 4 獣鏡	224	186	
332	西求女塚 9 号三角縁吾作銅出徐州銘 4 神 4 獣鏡 (80、199、321 が同范)	224	186, 153	
337	黒塚 2 号三角縁獸帶 4 神 4 獣鏡	238	161	
344	黒塚 9 号三角縁獸帶 4 神 4 獣鏡	233	186, 161	
357	黒塚 22 号三角縁 4 神 4 獣鏡	225	186, 161	
362	黒塚 27 号三角縁獸帶 4 神 4 獣鏡 (337、368 と同范)		153, 125	
364	黒塚 29 号三角縁獸帶 4 神 4 獣鏡 (365 と同范)	220	186, 161	
365	黒塚 30 号三角縁獸帶 4 神 4 獣鏡 (364 と同范)	220	186, 161	
368	黒塚 33 号三角縁獸帶 4 神 4 獣鏡 (337、362 と同范)	237	161, 125	

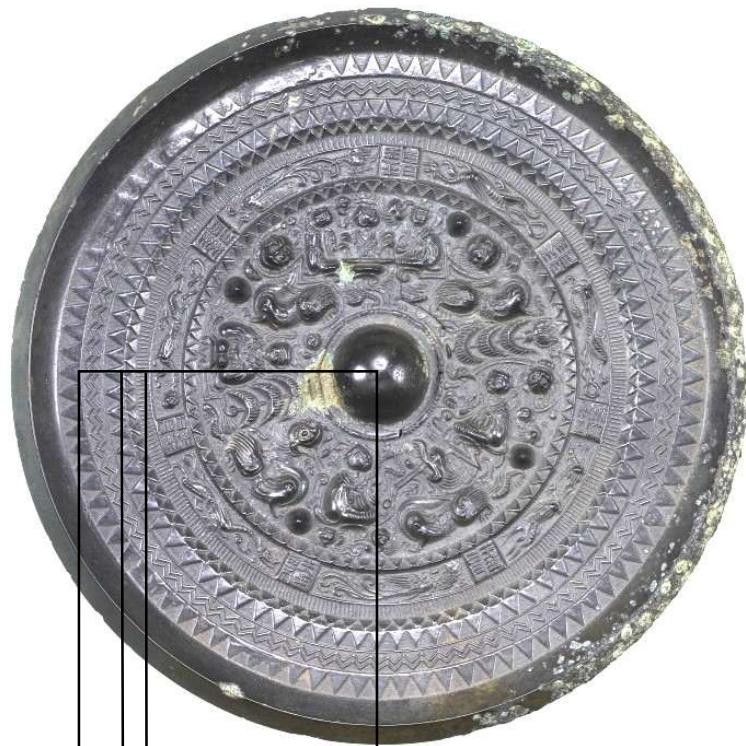
75 奈良佐味田宝塚三角縁 3 神 3 獣鏡の同環鏡の同数鏡 (環径 186,161,153,125mm)				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
40	佐賀谷口三角縁獸文帶 3 神 3 獣鏡	216	153	国内

75 の同環鏡の 1 例を以下に示した。

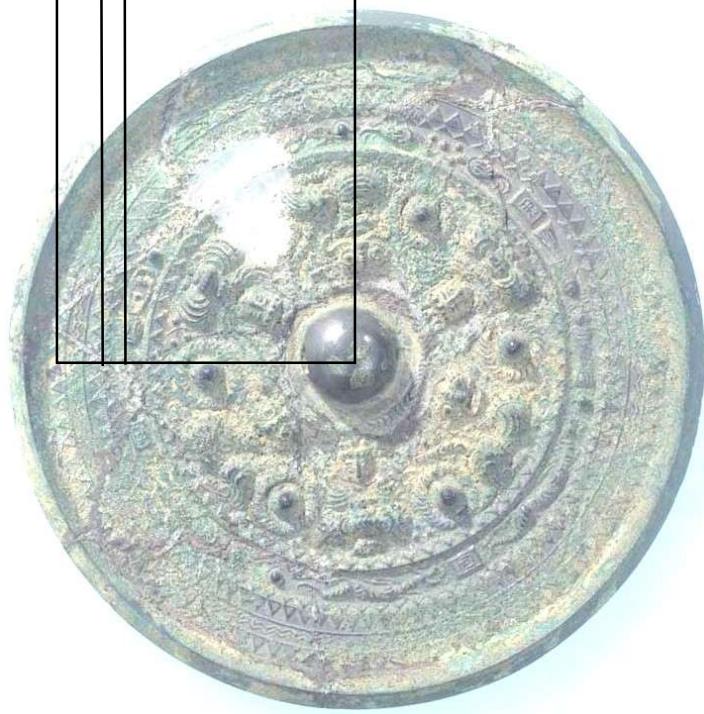
## (75,84)

84 静岡上平川大塚三角縁同向式神獸鏡が同環である。





84 静岡上平川大塚三角縁同向式神獸鏡（鏡径 229 mm）



75 奈良佐味田宝塚三角縁3神3獸鏡（鏡径 221 mm）

## 80 奈良佐味田宝塚三角縁 4 神 4 獣鏡の同環鏡



80 奈良佐味田宝塚三角縁 4 神 4 獣鏡（鏡径 226 mm）（199、321 と同范）

80 の同環鏡を下表に示した。同数鏡はなかった。

80 は三角縁神獣鏡とのみ同環であった。多くの黒塚鏡と同環であるので、三角縁神獣鏡製作の最盛期の鏡と考えられる。

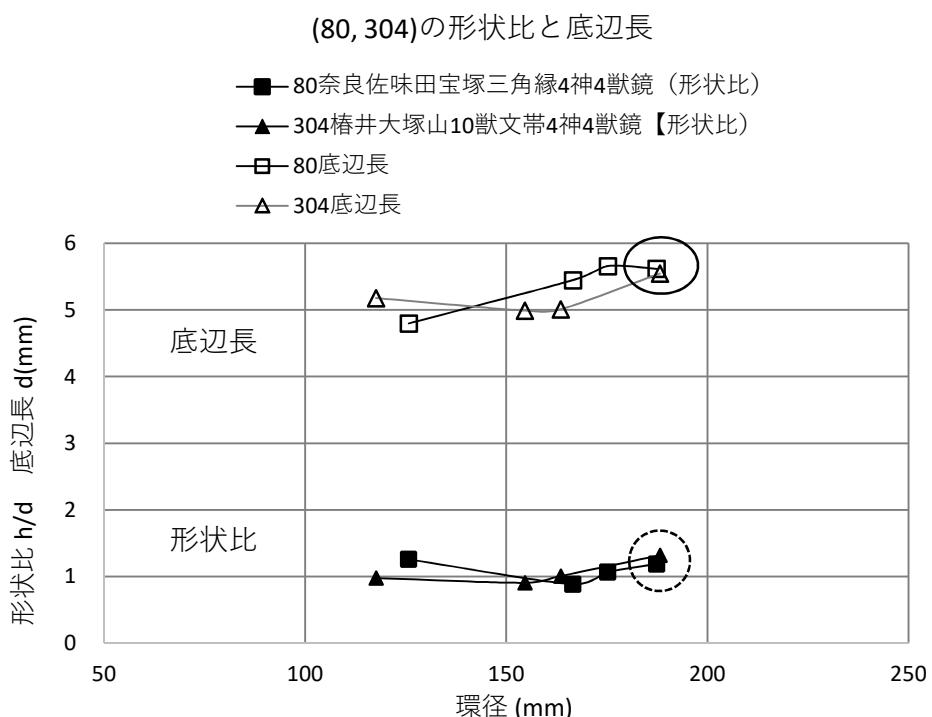
80 奈良佐味田宝塚三角縁 4 神 4 獣鏡の同環鏡（環径 183,171,162,128mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
8	出土地不明三角縁 2 神 2 獣鏡	210	171	
73	三重筒野三角縁 3 神 3 獣鏡	212	171	
75	佐味田三角縁 3 神 3 獣鏡	221	183	
281	黒塚 27 号獸文帶 4 神 4 獣鏡（362 と同じ）	234	183	
304	椿井大塚山 10 獣文帶 4 神 4 獣鏡(3, 285 と同じ)	233	183	
321	椿井大塚山 27 吾作徐州銘 4 神 4 獣鏡	224	183	
332	西求女塚 9 号三角縁吾作銅出徐州銘 4 神 4 獣鏡 (80、199、321 が同范)	224	162	

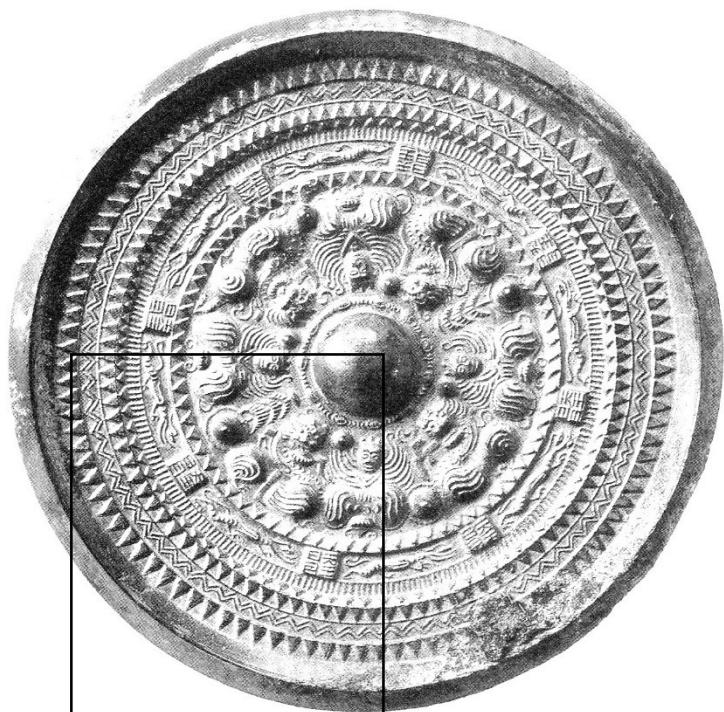
337	黒塚 2 号三角縁獸帶 4 神 4 獣鏡 (362、368 と同 范)	238	171	
344	黒塚 9 号三角縁獸帶 4 神 4 獣鏡 (椿井鏡と同范)	233	183	
357	黒塚 22 号三角縁 4 神 4 獣鏡	225	すべて	
362	黒塚 27 号三角縁獸帶 4 神 4 獣鏡 (337、368 と同 范)	234	171	
368	黒塚 33 号三角縁獸帶 4 神 4 獣鏡 (337、362 と同 范)	237	171	

80 の同環鏡の 1 例を以下に示した。

## (80, 304)

304 が同環である。





304 椿井大塚山 10 獣文帶 4 神 4 獣鏡（鏡径 233 mm）



80 奈良佐味田宝塚三角縁 4 神 4 獣鏡（鏡径 226 mm）

## 83 奈良佐味田宝塚三角縁対置式神獸鏡の同環鏡



83 奈良佐味田宝塚三角縁対置式神獸鏡（鏡径 218 mm）

83 の同環鏡と同数鏡をまとめて下表に示した。83 の同環鏡は記録にうんざりするほどある。陳是銘鏡の 57 があるので、これらの鏡のほとんどは陳是作品であることになる。

187 mm 環径は 172 から、170 mm の環径は 166 から、162 mm の環径は 131 から、124 mm の環径は 132 からと、それぞれ中国鏡から採っていることが分かる。83 の四つの環径はすべて中国由来である。

同数鏡の中の中国出土鏡は、陳是がこれらの鏡から鋸歯文を拝借したものである。ただし、形状比は小さくし、緩やかな鋸歯にした。

83 奈良佐味田宝塚三角縁対置式神獸鏡の同環鏡（環径 187,170,162,124mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
37	岐阜長塚三角縁獸文帶 3 神 3 獣鏡	216	187	無印は 国内出土
43	岡山車塚三角縁波文帶 6 神 4 獣鏡	250	187	
52	兵庫女塚三角縁獸文帶 3 神 3 獣鏡	221	187,170	
62	山口宮の洲三角縁波文帶盤龍鏡	244	187	

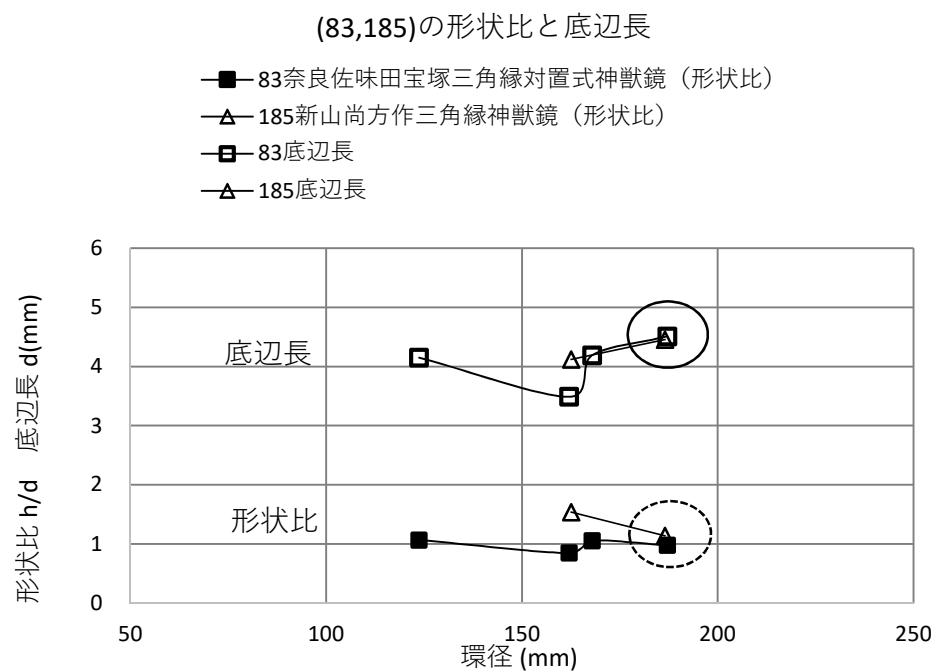
72	岡山車塚三角縁 6 神 6 獣鏡	221	187	
178	邴各庄方格規矩鳥文鏡	134	124	中国
185,	新山尚方作三角縁神獸鏡	223	187	
216	沖ノ島三角縁 2 神 2 獣鏡	222	170	
313	椿井大塚山 19 吾作 4 神 4 獣鏡	226	187	
328	西求女塚 5 号 陳是作 三角縁 5 神 5 獣鏡	218	124	
375	福岡原口三角縁獸文帶 3 神 3 獣鏡	219	162	
407	平原 24 号 方格規矩 4 神鏡	188	170	

83 奈良佐味田宝塚三角縁対置式神獸鏡の同数鏡（環径 187,170,162,124mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
12	正始元年（240 年）陳是作三角縁同向式神獸鏡	226	162	無印は 国内出土
47	愛知出川大塚三角縁 3 神 3 獣鏡	221	162	
48	岡山鶴山丸山三角縁 3 神 2 獣鏡	236	170	
51	鳥取大将塚三角縁獸文帶 3 神 3 獣鏡	223	162	
70	京都樺原百々ヶ池三角縁 2 神 2 獣鏡	224	170	
104	貝吹山ダ龍鏡	227	162	
131	中国紹興龍氏作画像鏡	212	162	中国
132	河北省易県吾作甚獨奇銘方格規矩鳥文鏡	154	124	中国
162	京都百々ヶ池獸帶鏡	215	170	
166	永平 7 年（64 年）尚方作獸帶鏡	190	170	中国
172	石氏作永元 3 年（91 年）画像鏡	250	187	中国
186	朝日谷 2 号墳 1 号鏡	187	162	
203	黒塚三角縁（2）	227	187	
217	沖ノ島方形帶方格規矩鏡	262	180,162	
233	奈良平林交互式神獸鏡	215	162	
296	椿井大塚山 2 吾作 4 神 4 獣鏡	198	170	
297	椿井大塚山 3 吾作 4 神 4 獣鏡（296 と同范）	198	170	
301	椿井大塚山 7 張氏作 3 神 5 獣鏡	226	187	
303	椿井大塚山 9 獣文帶 4 神 4 獣鏡	234	187	
348	黒塚 13 号張是作三角縁銘帶 4 神 4 獣鏡	218	170	
354	黒塚 19 号三角縁銘帶 4 神 4 獣鏡	223	162	
374	福岡那珂三角縁 5 神 4 獣鏡	218	162	
414	平原 31 号方格規矩 4 神鏡	186	170	

83 の同環鏡の 1 例を以下に示す。

## (83,185)

185 新山尚方作三角縁神獸鏡が同環である。185 は尚方作となっているが、勿論偽称である。





185 新山尚方作三角縁神獸鏡（鏡径 223 mm）



83 奈良佐味田宝塚三角縁対置式神獸鏡（鏡径 218 mm）

佐味田古墳においても、三角縁神獣鏡は陳是銘鏡と同環であり、かつお互いに同環であり、全体で陳是作品である。

また、それらの鋸歯文（環径、底辺長）は中国後漢鏡鏡に由来するが、三角縁神獣鏡では、形状比は小さく、すなわち鋸歯は緩やかにしたことが分かる。その結果、三角縁神獣鏡は、中国鏡と異なる鋸歯文（環径、底辺長、形状比）を持つようになったのである。

## 奈良佐味田鏡のまとめ

佐味田古墳出土鏡の同環鏡探索結果を家屋文鏡もふくめて以下にまとめた。

佐味田古墳は他の古墳と同様に、少数の中国鏡と多数の三角縁神獣鏡よりなっている。

三角縁神獣鏡はもちろんすでに本欄の過去の論文で指摘してきたように陳是・陳氏達渡来工人による日本製である。

その少数の中国鏡が佐味田古墳の場合は家屋文鏡である。

ではなぜ家屋文鏡が佐味田古墳に埋蔵されたのか。

ここからあとは無責任な想像であるが、佐味田古墳は陳是の墓なのではないか。陳是は持参した故郷中國の家屋文鏡を自分の墓に望んだのではないか。

陳是・陳氏は三角縁神獣鏡を使って、邪馬台国を倒し日本を再統一するというヤマト朝廷の大事業に大きな役割を果たした。ヤマト朝廷もその功績に感謝し、陳是・陳氏を手厚く葬ったとすれば、古代の美談が出来上がるるのである。筆者たちはそれをひそかに楽しむのである。

しかし、あくまでも歴史的事実は、家屋文鏡が中国製であるというところまでであるが。

佐味田鏡の同環鏡探索結果は以下のようである。

通し番号	鏡の名称	鏡径 (mm)	当検討での判定
103	佐味田家屋文鏡	229	103 の同環鏡は 5 面であった。 この中で環径まで厳密に一致するものは 175 ホケノ山鏡であるが、175 は 206 建武 5 年銘鏡と同環であるので、175 を介して 103 は 206 と同環と判定され、103 は中国 製と判定される。 さらに、103 は形状比と底辺長が 2 付近に 集まるという一部の中国鏡特有の特徴を有 している。 したがって 103 は中国製である。
16	奈良佐味田宝塚三角縁画像 鏡	211	16 は多くの三角縁神獣鏡と同環である。そ の中の 56 岡山車塚三角縁 4 神 2 獣鏡は陳

			是銘である。16自身とこれらの同環鏡、同数鏡はすべて陳是作品である。 中国鏡の同環鏡は まったくない。
75	奈良佐味田宝塚三角縁3神 3獸鏡	221	75は多くの三角縁神獸鏡と同環である。 中国鏡の同環鏡はなかった。 特に椿井鏡と黒塚鏡に同環鏡が多い。完全 に量産期の鏡である。
80	奈良佐味田宝塚三角縁4神 4獸鏡	226	80は三角縁神獸鏡とのみ同環であった。 多くの黒塚鏡と同環であるので、三角縁神 獸鏡製作の最盛期の鏡と考えられる。
83	奈良佐味田宝塚三角縁対置 式神獸鏡	226	83の同環鏡は記録にうんざりするほどある。 187mm環径は172から、170mmの環径は 166から、162mmの環径は131から、124 mmの環径は132からと、それぞれ中国鏡か ら採っていることが分かる。 ただし、形状比は小さくし、緩やかな鋸歯 にした。

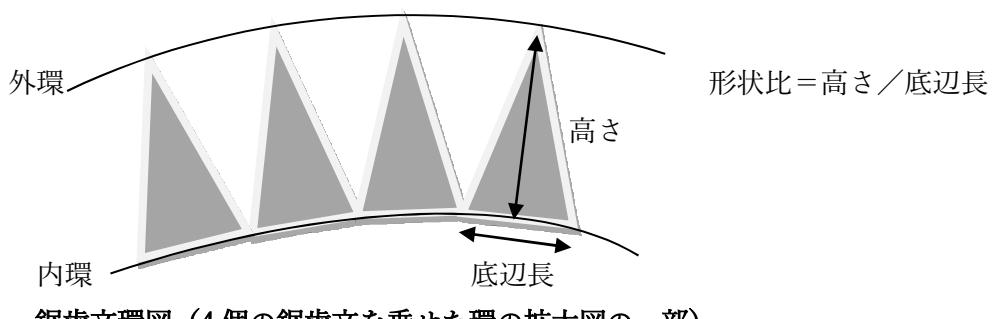
以上

### 「(その3)佐味田家屋文鏡とその他の佐味田三角縁神獸鏡」に関するコラム

#### コラム1：佐味田古墳鏡26面の写真

本論考では、佐味田古墳から出土した家屋文鏡及び4面の三角縁神獸鏡に「同環鏡論」を適用して、上記本文に述べた画期的な知見－家屋文鏡は中国製－を得た。しかし、「e国宝-三角縁神獸鏡-奈良県佐味田宝塚古墳出土品」<sup>\*1</sup>によれば、「・・佐味田宝塚古墳から出土した鏡は、発掘当初は36面を数えたと言われ（現在は26面が伝わる）、一古墳から出土した枚数では全国第三位に相当する。・・」があり、筆者らの「同環鏡論」を適用していない鏡は、まだ21面存在することになる。

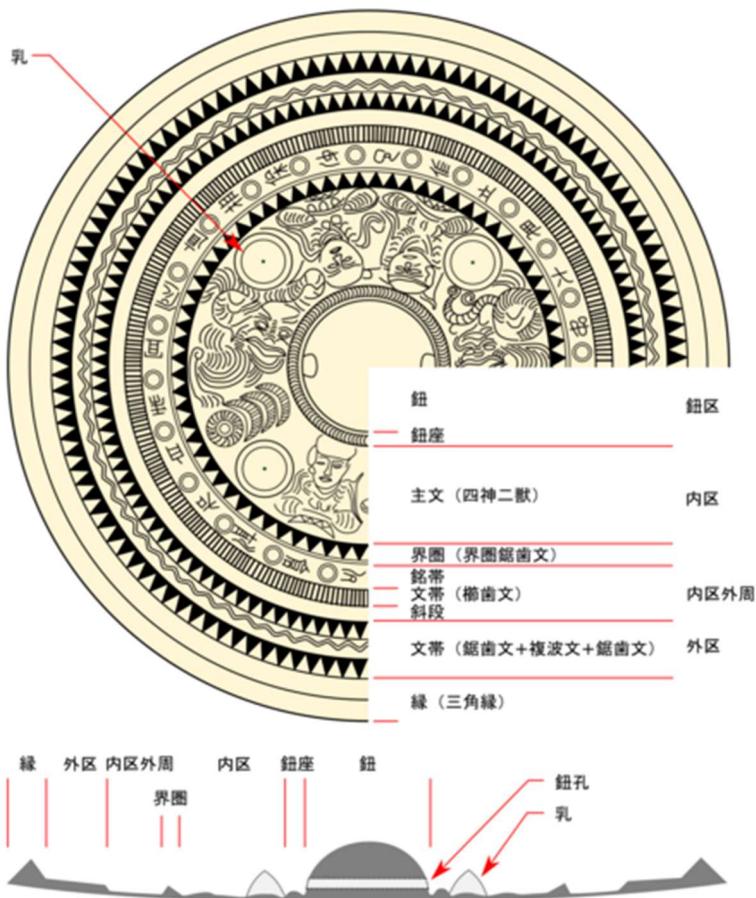
筆者らはこの残り21面の「鏡の仕様（鏡式、鏡径等）」及び「鏡の明瞭な正面写真」入手し、浮き彫りの「鋸歯文（細長い二等辺三角形）」の「底辺長」と「形状比（=高さ／底辺長）」を測定し、「家屋文鏡は中国製」という新知見の信憑性を確かなものにしたいと考えています、それらの入手にいまだめどはたっていませんが。



<sup>\*1</sup>出典

[https://emuseum.nich.go.jp/detail?langId=ja&webView=null&content\\_base\\_id=100030&content\\_part\\_id=3&content\\_pict\\_id=0](https://emuseum.nich.go.jp/detail?langId=ja&webView=null&content_base_id=100030&content_part_id=3&content_pict_id=0)

参考までに三角縁神獸鏡の部分名称図を下記に示す。



三角縁神獸鏡の部分名称図\*2

\*2

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%89%E8%A7%92%E7%B8%81%E7%A5%9E%E7%8D%A3%E9%8F%A1>

## コラム 2：家屋文鏡の浮き彫り家屋は中国大陸の古代建築

佐味田家屋文鏡は、下図に示すように4棟の建物が見て取れ、一般には「佐味田家屋文鏡は日本製」、従って「浮き彫りになった4棟の建物は、**日本列島の古代建築**を知るうえで重要な史料」とされている。

以降、佐味田家屋文鏡は、「103 奈良佐味田家屋文鏡」、「家屋文鏡」もしくは「103」と表記する。鏡名前の番号は、著者らが付けた通し番号である。



103 奈良佐味田家屋文鏡（鏡径 229 mm）

しかし、森浩一「日本神話の考古学」(p174) には、『浙江省文物研究所の王士倫氏のあらわした「浙江出土銅鏡」には、日本の家屋文鏡の祖型とも考えられる「屋舎人物画像鏡」が紹介されている。同省上虞県出土の、直径 21 センチほどの大型鏡である。』との記述もある。以降、屋舎人物画像鏡も「424 屋舎人物画像鏡」もしくは「424」と表記する。

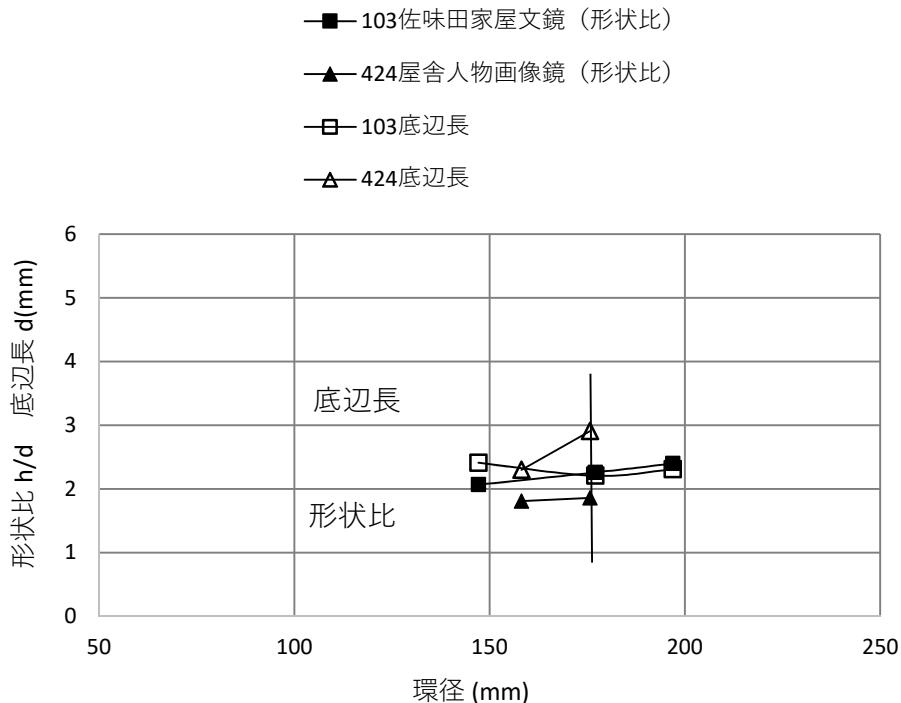


424 屋舎人物画像鏡（鏡径 213 mm）

そこで、著者らは、「同環鏡論」を屋舎人物画像鏡及び家屋文鏡の鋸歯文に適用して、「屋舎人物画像鏡の鋸歯文が中国鏡を示すのか」また「家屋文鏡と同環であるのか」を調査した。

なお、屋舎人物画像鏡の外観写真は、浙江省文物研究所/王士倫「浙江出土銅鏡」のものを借用した。調査した両鏡の形状比（■と▲）と底辺長（□と△）を下図に示す。

### (103, 424)の形状比と底辺長



103 家屋文鏡と 424 屋舎人物画像鏡は、その形状比と底辺長の点がそれぞれ一致していない。即ち、両鏡は互いに同環ではない。しかし、103 と 424 はともに「形状比と底辺長が 2 付近に集まる傾向を有する」とともに、「175 mm付近の環径で共通の環径を有している」。これらの点から「103 家屋文鏡は中国製である」こと、従って、上記森浩一の指摘が正しかったことが「同環鏡論」により検証されたことになる。

このように、「同環鏡論」は「鋸歯文の形と配列(底辺長、形状比、環径)を計測すること」で、「鋸歯文を有する古代青銅鏡の製作地」を客観的、定量的、科学的に検証するのに有益なツールであることが分かる。また、今後は「佐味田家屋文鏡の浮き彫りになった 4 棟の建物は、**中国大陆の古代建築**を知るうえで重要な史料」と位置付けられるべきである。